山梨県北巨摩郡白州町

旧菅原小学校遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1997

白州町教育委員会
峡北土地改良事務所

山梨県北巨摩郡白州町

旧菅原小学校遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1997

白州町教育委員会
峡北土地改良事務所

序

この報告書は、平成５年度県営圃場整備事業に伴い、発掘調査された旧菅原小学校遺跡の調査結果をまとめたものであります。

白州町には、縄文時代から古代、中世までの各時代にわたり、人々の生活の跡を語る埋蔵文化財包蔵地が数多く分布し、各遺跡からは、それぞれの時代の土器類等が発見されています。特に、白須・鳥原・横手地区等の広い段丘面には、大規模な遺跡の存在が知られています。

全町を対象とした水田の圃場整備事業は、昭和58年度から開始され、その間には昭和59年の根古屋遺跡の発掘をはじめ、数カ所の発掘調査が行われました。

旧菅原小学校遺跡は、釜無川右岸の高位段丘面上、白州町白須字柳原地内に所在し、 4,350㎡の範囲にわたり発掘調査されました。その結果、縄文時代中期の遺物、平安時代の住居址６軒等が発見されました。そのなかには、県内唯一の佐波理の破片など大変貴重なものがありました。

最後に、この事業にご協力を賜りました峡北土地改良事務所・山梨県教育庁学術文化課等関係機関の皆様をはじめ、直接にご協力をいただきました白須地区の皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成９年３月

白州町教育委員会

教育長 渡 辺 哲 郎

例　　言

1　本書は、平成５年度県営圃場整備事業に伴って発掘調査した、山梨県北巨摩郡白州町白須字柳原に所在する旧菅原（すがはら）小学校遺跡の調査報告書である。

2　発掘調査は、峡北土地改良事務所との負担協定による委託と文化庁・山梨県から補助金を受けて白州町教育委員会が実施した。

3　遺構の実測は、株式会社こうそくへ委託して行った。

4　遺物の拓本・実測は、込山、中山、豊浦が行い、写真撮影は杉本が行った。

5　本文の執筆及び編集は、杉本が行った。

6　本調査の出土品・諸記録は、白州町教育委員会が保管している。

7　本調査にあたり、峡北土地改良事務所・山梨県教育委員会学術文化課・山梨県埋蔵文化財センター・山梨県史編纂室・北巨摩市町村文化財担当者会並びに、地元の白須下区の皆様にご指導とご協力をいただいた。心から謝意を表する次第です。

調査組織

調査主体　白州町教育委員会　教育長　大久保勝雄（～平成６年９月）
〃　向井　敏道（～平成８年９月）
〃　渡辺　哲郎（平成８年10月～）

事務局　堀内　譲　教育課長（～平成７年３月）
山本賢二　〃　（平成８年４月～）

調査担当者　杉本　充

調査参加者　川崎東洋雄、込山裕代、山本静枝、渡辺勝夫、向井正成、中山陽子、豊浦和子

目　　次

序
例　言・調査組織
目　次・凡　例
Ⅰ章　調査状況……1
　1節　調査に至る経過……1
　2節　調査経過……1
Ⅱ章　遺跡の位置と概観……2
　1節　位　置……2
　2節　概　観……2
Ⅲ章　遺構と遺物……7
　1節　平安時代の遺構と遺物……7
　2節　土　　坑……8
　3節　遺構外遺物……8
Ⅳ章　ま と め……11
付編（白州小学校体育館地点）……43
図　版

挿図目次

第1図　遺跡位置図……3
第2図　調査区位置図……4
第3図　周辺の遺跡……5
第4図　全測図……12
第5図　1・2・3号住居址……13
第6図　4・5・6号住居址……14
第7図　1号住居址出土遺物……15
第8図　2号住居址出土遺物①……16
第9図　2号住居址出土遺物②……17
第10図　3号住居址出土遺物①……17
第11図　3号住居址出土遺物②……18
第12図　4号住居址出土遺物①……19
第13図　4号住居址出土遺物②……20
第14図　5号住居址出土遺物①……20
第15図　5号住居址出土遺物②……21
第16図　6号住居址出土遺物①……22
第17図　6号住居址出土遺物②……23
第18図　6号住居址出土遺物③……24
第19図　6号住居址出土遺物④……25
第20図　遺構外出土遺物……26

図版目次

図版1　全　景（空撮）……37
図版2　近　景……38
図版3　1号住居址 カマド……39
図版4　2号住居址……40
図版5　3・4号住居址……41
図版6　5・6号住居址／土坑群……42

凡　例

1　遺構平面図は、1/80に統一した。
2　遺物は、1/3を基本とし、平安時代の坏・皿は1/2とした。
3　黒色処理された坏の内面は、墨書土器を除きスクリーントーンをかけてある。
4　遺物断面は、須恵器を黒塗り、陶器にはスクリーントーンをかけてある。
5　表裏に文様のある土器は、右に内面の拓影を図示した。
6　出土遺物一覧表の法量は、上から口径・底径・器高の順で記載し、単位はcmである。

Ⅰ章　調査状況

1節　調査に至る経過

平成5年度着工予定の山梨県北巨摩郡白州町白須地区県営圃場整備事業に伴い、平成4年11月に実施した埋蔵文化財範囲確認調査により、周知の埋蔵文化財包蔵地である旧菅原小学校遺跡の範囲が確認された。

範囲確認調査は、県営圃場整備事業予定区域1,5haを対象として、幅2m・長さ10m程の試掘坑を任意に設定し、重機により耕作土及び水田床土を排土した後、人力により地山まで掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認する方法で行った。

その結果、平安時代の土師器片、土坑などが検出され、これまでの町誌等で報告されていた位置より中心で100m程北東にずれることが確認された。以上の結果から、峡北土地改良事務所の委託、国・県からの補助金を受けて、町教育委員会が主体となり本調査を実施することとなった。

その後、平成8年度に白州町地内の県営圃場整備事業の終了に伴い、事業主体である峡北土地改良事務所と町とで整理調査の負担協定を締結し、本報告書刊行の運びとなった。

2節　調査経過

発掘調査は、平成5年6月10日から開始し、同年9月2日に現地調査を終了した。その後、報告書までの整理作業が完了したのは、平成9年3月であった。

調査方法は、遺物包含層がほとんどないため重機で遺構検出面まで掘り下げた。その結果、7軒の平安時代に属する竪穴住居址6棟と土坑42基が発見された。遺構検出面は、暗褐色土であった。調査区は、試掘調査により約4,350㎡の範囲（第2図）とし、グリッドは、10m四方で公共座標軸に合わせて設定した。

現地調査中は、例年よりかなり降水量が多く、また現地が周囲より低いこともあり冠水する事が多かったため、遺構や通路部分を板で覆い排水路を幾状も掘りながらの調査となった。

II章　遺跡の位置と概観

1節　位　　置

旧菅原小学校遺跡は、山梨県北巨摩郡白州町白須字柳原168番地他に所在する（第1図）。

本遺跡は、明石山脈の北部、甲斐駒ヶ岳の前山群を構成する巨摩山地の一つ、日向山の東麓に位置し、白須下集落の北に隣接している。また、北300mに釜無川（富士川）が北西から南東に流れ、この釜無川によって形成された河岸段丘中位面に立地している。

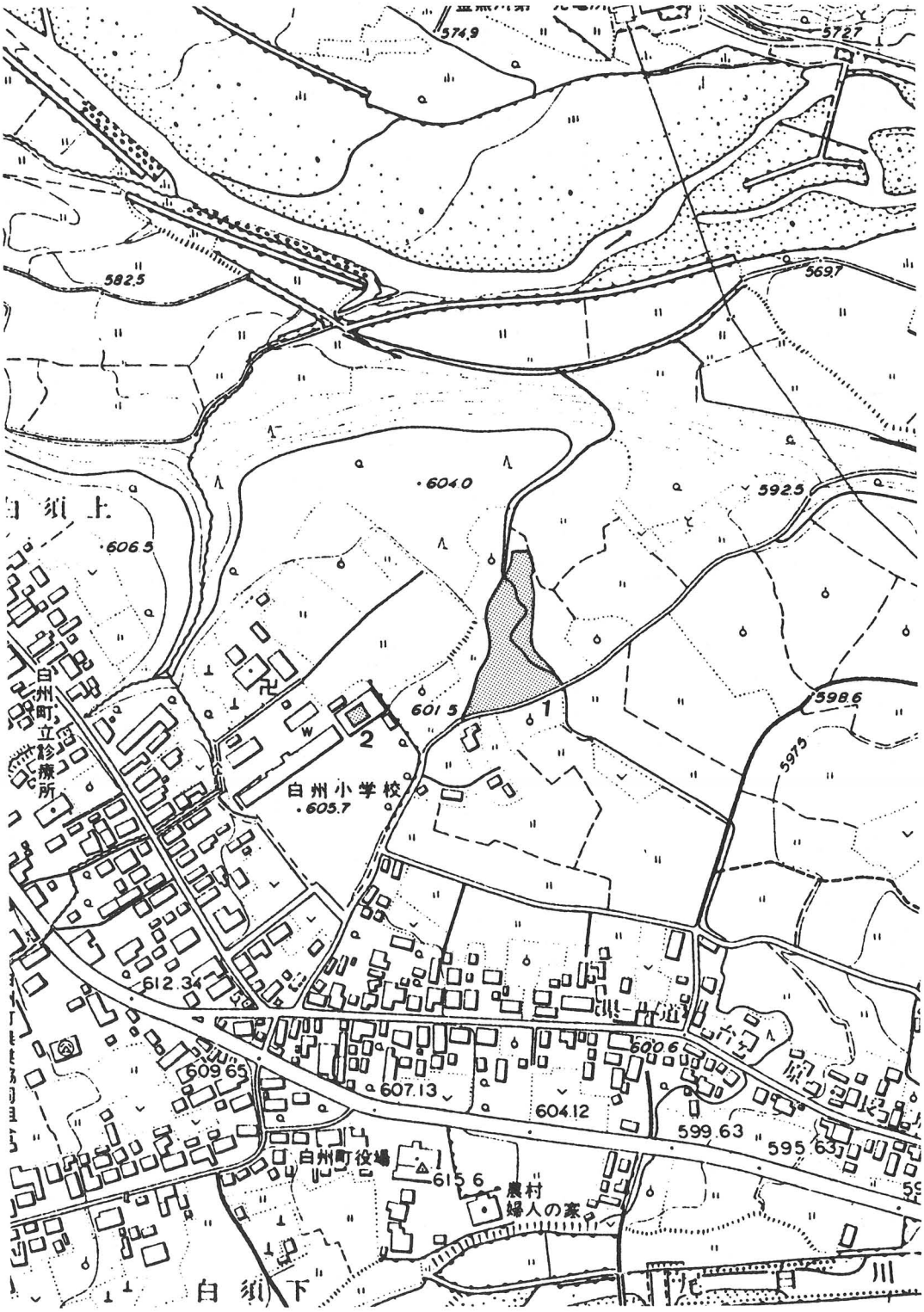
周辺の遺跡として、西に1,000～2,000m離れた河岸段丘高位面には、北原遺跡（第3図23）・大除2遺跡などの拠点的集落があり、また北西1,000mに坂下（3－28）・所帯I（3－26）・所帯II（3－27）遺跡の3遺跡が点在し、これらは圃場整備事業に伴い発掘調査が行われ報告書が刊行されている。坂下遺跡は、2,820㎡の調査区に平安時代の竪穴住居址4軒、小型の竪穴住居址と推定される小竪穴が3基、掘立柱建物址1棟の他、中世の土坑50基と石組をもつ水路状遺構が検出された。所帯I遺跡は、1,880㎡の調査区に平安時代の竪穴住居址6軒、掘立柱建物址4棟、土坑11基が検出された。所帯II遺跡は、3,280㎡の調査区に平安時代の竪穴住居址10軒、掘立柱建物址2棟の他、土坑60基が検出されている。この3遺跡は、いずれも小規模で出作り集落と推定されている。

2節　概　　観

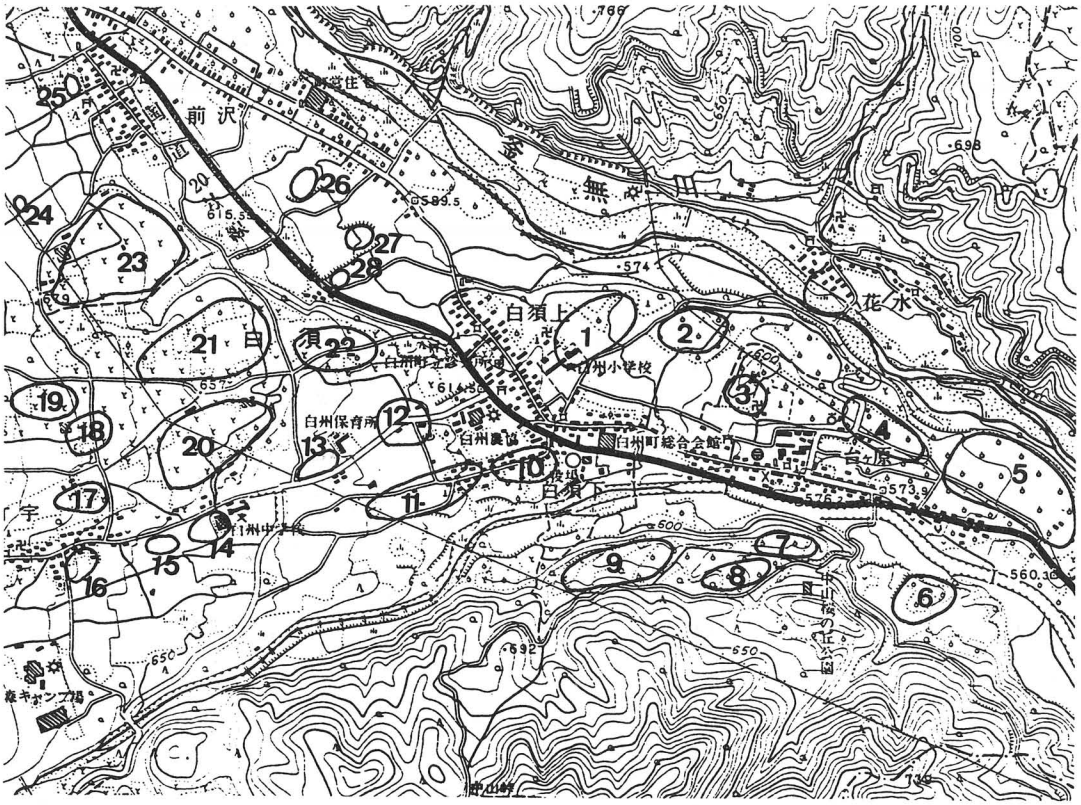
本遺跡は、小学校建設のため造成された部分とほぼ重なっていたと推定され、これまでの詳細分布調査などでは煙滅したものとされてきた。今回の発掘調査は、遺跡の周縁部にかぎられているが、これまで調査されている他の水田下の遺跡と比較しても遺存状態も悪くなく、また調査により遺跡の中心がこれまでより北にずれることが確認されたので、本遺跡の大部分は未だ良好に遺存されていると推定される。

本遺跡は比較的規模が大きく、この地区の縄文時代中期と平安時代における拠点的集落と考えられる。

第Ⅰ図　遺跡位置図（1／50,000）



第２図　調査区位置図（１、圃場整備地点　２、体育館地点）１／5,000



第３図　周辺の遺跡（１／25,000）

第Ⅰ表　周辺遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	所　在　地	主　な　時　代	備　　考
1	旧菅原小学校	白須字柳原	縄（中）・平安	平成５・７年度発掘調査
2	大久保	白須字大久保	縄（中）・中世	
3	中台２	台ケ原字中台	縄（中）・平安	
4	中台１	台ケ原字中台	縄（前中）・平安	
5	屋敷平	台ケ原字屋敷平	縄（早中）・弥・中	平成３年度発掘調査
6	根古屋	台ケ原字根古屋	縄（中）・中世	昭和59年度発掘調査
7	陣ケ原２	台ケ原字陣ケ原	縄（前）・平・中	
8	陣ケ原１	台ケ原字陣ケ原	縄・弥・平・中	
9	川平	白須字川平	縄文（中）	
10	柳原	白須字柳原	縄文（前・中）	
11	南田	白須字南田	縄（前中）・平・中	
12	中村２	白須字中村	縄文・平安・中世	
13	中村１	白須字中村	縄文・平安・中世	
14	堰口１	白須字堰口	縄文（前）・平安	
15	堰口２	白須字堰口	平安・中世	
16	桜井１	白須字桜井	縄文（中）	
17	竹宇１	白須字竹宇	縄文（中）・中世	
18	大除３	白須字大除	縄文（前）	
19	大除４	白須字大除	縄文・中世	
20	竹宇２	白須字竹宇	縄（中）・平・中	
21	大除２	白須字大除	縄（中）・平・中	
22	大除１	白須字大除	中世	
23	北原	白須字北原	縄（中）・平・中	
24	雑木	白須字雑木	縄（前中晩）・平	平成４年度発掘調査
25	竹花	白須字竹花	縄文（中）・中世	
26	所帯Ⅰ	白須字所帯	平安・中世	昭和63年度発掘調査
27	所帯Ⅱ	白須字所帯	平安・中世	昭和63年度発掘調査
28	坂下	白須字坂下	平安・中世	昭和62年度発掘調査

Ⅲ章　遺構と遺物

1節　平安時代の遺構と遺物

本調査では、平安時代に属する竪穴住居址が6軒検出された。その内4軒（1～4号住居址）は、調査区北側に弧形にならんで検出されたが、住居址内を除く周辺で遺物はほとんどみられなかった。調査区南端に重複して検出された2軒（5・6号住居址）の周辺では、多量の土師器片が出土している。

1号住居址（第5・7図）

調査区中央北側、H－6区に位置する。隅丸長方形を呈し、5×4.2mを測る。覆土は、砂を多く含む暗褐色土である。柱穴は、検出されなかった。カマドは、北壁東寄りに礫と粘土で構築されていた。遺物は、特にカマド西側に集中して出土している。

2号住居址（第5・8・9図）

調査区北側、E－5区に位置する。18－1・18－2・19号土坑に切られている。隅丸方形を呈し、4.2×4.1mを測る。覆土は、砂を多く含む暗褐色土である。柱穴は、どれも10～15cmの深さである。床面は、東側約半分が粘土で固く貼床されていた。また、隅を除きほぼ全面に焼土が検出され焼失住居と推定された。カマドは、北壁東寄りに礫と粘土で構築されていたが、かなり破壊されていた。遺物は、特にカマド西側及び南東隅に集中して出土している。

3号住居址（第5・10・11図）

調査区北側、F－5・6区に位置する。隅丸方形を呈し、4×3.9mを測る。覆土は、砂を多く含む暗褐色土である。柱穴は、検出されなかった。隅を除きほぼ全面に焼土が検出され、特に中央部に多量検出され焼失住居と推定された。カマドは、位置が特定できずほとんど破壊されたものと推定された。

4号住居址（第6・12・13図）

調査区北端、C・D－5・6区に位置する。隅丸長方形を呈し、5×3.8mを測る。覆土は、砂を多く含む暗褐色土である。柱穴は、検出されなかった。隅を除きほぼ全面に焼土が検出され、特に数カ所に多量集中しており焼失住居と推定された。カマドは、遺物と焼土が多量検出された東壁南寄りと推定された。特筆する遺物として合金製の銙の口縁部が中心からやや西の覆土から出土している（第13図－8）。器厚は1ミリなく、腐食は見られない。おそらく仏具の佐波理と思

われる。また、円盤部分だけであるが鉄製の紡錘車が出土している（第13図－９）。

５号住居址（第６・14・15図）

調査区南西端、Ｎ－２区に位置する。６号住居址を切る。北東隅を除き調査区外にあるため、調査部分で2.5×1.9ｍを測る。北東隅からは、焼土・小礫とともに甕片が多量集中していたのでカマド跡と推測された。

６号住居址（第６・16～19図）

調査区南西端、Ｎ－２区に位置する。５号住居址と31・32・33号土坑に切られている。西側の半分以上が調査区にあり、東辺６ｍを測る。カマドは、５号住居址と同じく北東隅から焼土・小礫とともに甕片が多量集中していたので北東隅にあったと推測された。

２節　土　　坑（第２表）

本調査では、土坑42基が発見された。ほとんどが「円形土坑」であり、時期は、平安時代末期の住居址を切っていることと、近世に造成されたとみられる水田下にあることから、中世に属するものと推定される。「円形土坑」は、平面形がほぼ正円形を呈し、径100～130㎝のものが大半を占め、一定の規格があったことが推定される。断面形は、フラスコ状ないしは円筒状を呈する。深さについては、10～110㎝の広い範囲に極だった集中部分もなく規格性は認められない。壁面には、明瞭な工具痕（幅５～６㎝）が残っている。覆土は、ほとんど一層でしまりがなく、細かなロームブロックが均一に混ざっていることから、掘られた直後に埋め戻されたと推定される。遺物は、混入品を除くとまったく見られない。

「円形土坑」は、町内の発掘調査により600基以上がこれまでに検出されているが、その用途は不明である。平成６年以降の発掘調査では、その用途を解明するための一助として、同様の土坑で覆土のリン酸分析等を続けている。

３節　遺構外遺物（第20図）

平安時代の遺物については、調査区の南西を中心に多量出土しているが、そのほとんどが小片であり、図示できるものは少なかった。縄文時代の遺物については、調査区西辺北寄りＧ－４区に若干の集中が見られた。また、特殊な遺物として調査区各所及び付近の畑などから土錘５個が採取されている。

第２表　土坑一覧表

番　号	平面形	規　模　(cm)			覆　　土	備　　考
		検出面	深さ	底　面		
1	円　形	103 × 96	26	87 × 81	暗褐色土	
2	円　形	126 × 117	78	108 × 100	暗褐色土　ロームを若干含む	
3	円　形	140 × 139	56	121 × 117	暗褐色土　ロームを若干含む	
4	円　形	(150)× 147	46	(130)× 110	暗褐色土　ロームを若干含む	5土と重複
5	円　形	137 ×(128)	48	103 ×(100)	暗褐色土　ロームを若干含む	4土と重複
6	円　形	180 ×(171)	29	115 ×(120)	暗褐色土　ロームを若干含む	9-1土と重複
7	円　形	143 ×(111)	12	125 ×(104)	暗褐色土　ロームを多量含む	
8－1	円　形	(140)×(135)	39	(120)×(110)	黒褐色土　ロームを若干含む	8-2-3土と重複
8－2	円　形	150 ×(65)	39	130 ×(60)	黒褐色土　ロームを若干含む	8-1土と重複
8－3	円　形	(153)× 126	46	(110)× 112	黒褐色土　ロームを若干含む	8-1土と重複
9－1	円　形	110 ×(40)	22	90 ×(42)	暗褐色土　ロームを若干含む	6.9-2土と重複
9－2	円　形	140 ×(78)	33	110 ×(72)	暗褐色土　ロームを若干含む	9-1-3土と重複
9－3	円　形	77 ×(77)	23	63 ×(68)	暗褐色土　ロームを若干含む	9-2土と重複
10	円　形	120 × 110	11	116 × 98	黒褐色土　ロームを多量含む	
11	円　形	159 × 138	48	130 × 120	黒褐色土　ロームを多量含む	
12	円　形	154 × 135	72	124 × 123	暗褐色土　ロームを若干含む	
13	円　形	132 ×(81)	15	115 ×(71)	暗褐色土　ロームを若干含む	
14	円　形	160 × 150	76	146 × 135	暗褐色土　ロームを若干含む	
15	円　形	130 × 130	68	110 × 105	暗褐色土　ロームを多量含む	16土と重複
16	円　形	93 ×(26)	18	63 ×(10)	暗褐色土　ロームを多量含む	15土と重複
17	円　形	186 × 169	68	121 × 114	暗褐色土　ロームを若干含む	
18－1	円　形	153 ×(58)	134	137 ×(44)	暗褐色土　ロームを若干含む	2住を切る
18－2	円　形	165 × 153	48	148 × 130	暗褐色土　ロームを若干含む	2住を切る
19	円　形	174 × 158	86	130 × 148	暗褐色土　ロームを若干含む	2住を切る
20	円　形	155 × 140	75	133 × 102	黒褐色土　ロームを多量含む	
21	円　形	150 × 130	97	105 × 92	黒褐色土　ロームを含む	
22	方　形	(130)×(100)	62	(108)×(92)	暗褐色土　ロームを若干含む	4住と重複
23	円　形	142 × 133	25	125 × 113	暗褐色土　ロームを若干含む	
31	円　形	145 × 124	47	98 × 90	暗褐色土　ロームを若干含む	6住を切る

番　号	平面形	規　　模　(cm)			覆　　土	備　　考
		検出面	深さ	底　面		
32	楕円形	162 × 105	41	123 × 85	暗褐色土　ロームを若干含む	6住を切る
33	楕円形	157 × 95	39	130 × 85	暗褐色土　ロームを若干含む	6住を切る
34	円　形	133 × 133	74	108 × 102	暗褐色土　ロームを若干含む	
35	円　形	112 × 110	59	90 × 85	暗褐色土　ロームを若干含む	
36	円　形	80 × 63	39	52 × 51	黒褐色土	
37	円　形	95 × 85	23	80 × 70	黒褐色土	
41－1	円　形	148 × 137	61	144 × 127	暗褐色土　ロームを若干含む	41-2土と重複
41－2	円　形	140 × 136	6	120 × 114	暗褐色土　ロームを若干含む	41-1土と重複
42	円　形	142 × 135	66	110 × 97	暗褐色土　ロームを若干含む	
43－1	円　形	100 × 96	52	82 × 83	暗褐色土　ロームを若干含む	43-2土と重複
43－2	不整形	53 × 50	67	26 × 40	暗褐色土　ロームを若干含む	43-1土と重複
44	円　形	162 × 145	77	145 × 133	暗褐色土　ロームを含む	
46	円　形	65 × 62	40	30 × 25	暗褐色土　ロームを若干含む	

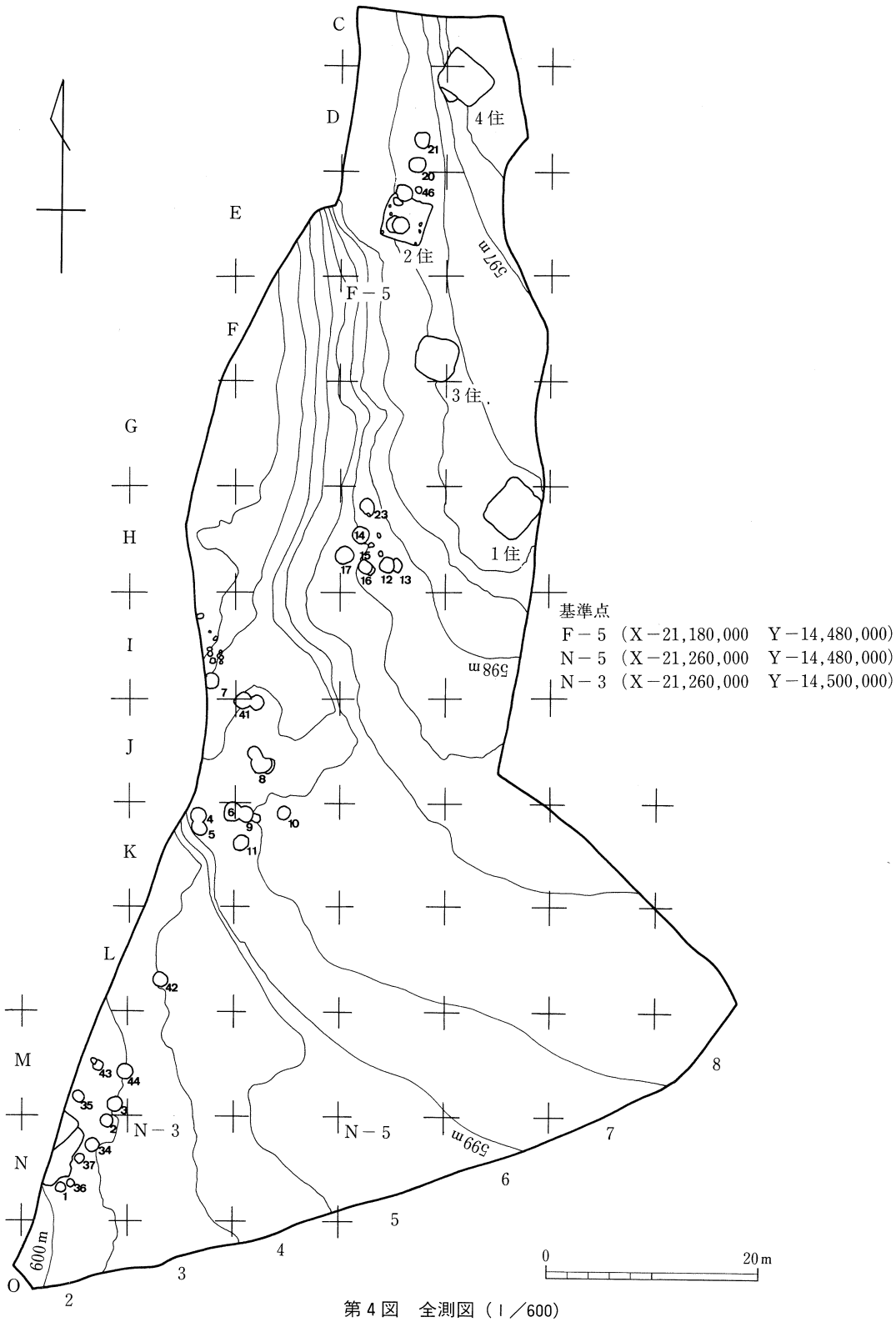
IV章　ま と め

本遺跡では、2地点の調査の結果、平安時代の竪穴住居址が計7軒発見された。縄文時代においては、遺物は多いものの遺構は発見されていない。現在、本遺跡出土の縄文土器は中期のものを中心に多量、白州小学校に保管されている。本調査中には、それを含め報告したいと考えてきたが、担当者の怠慢から成しえなかった。

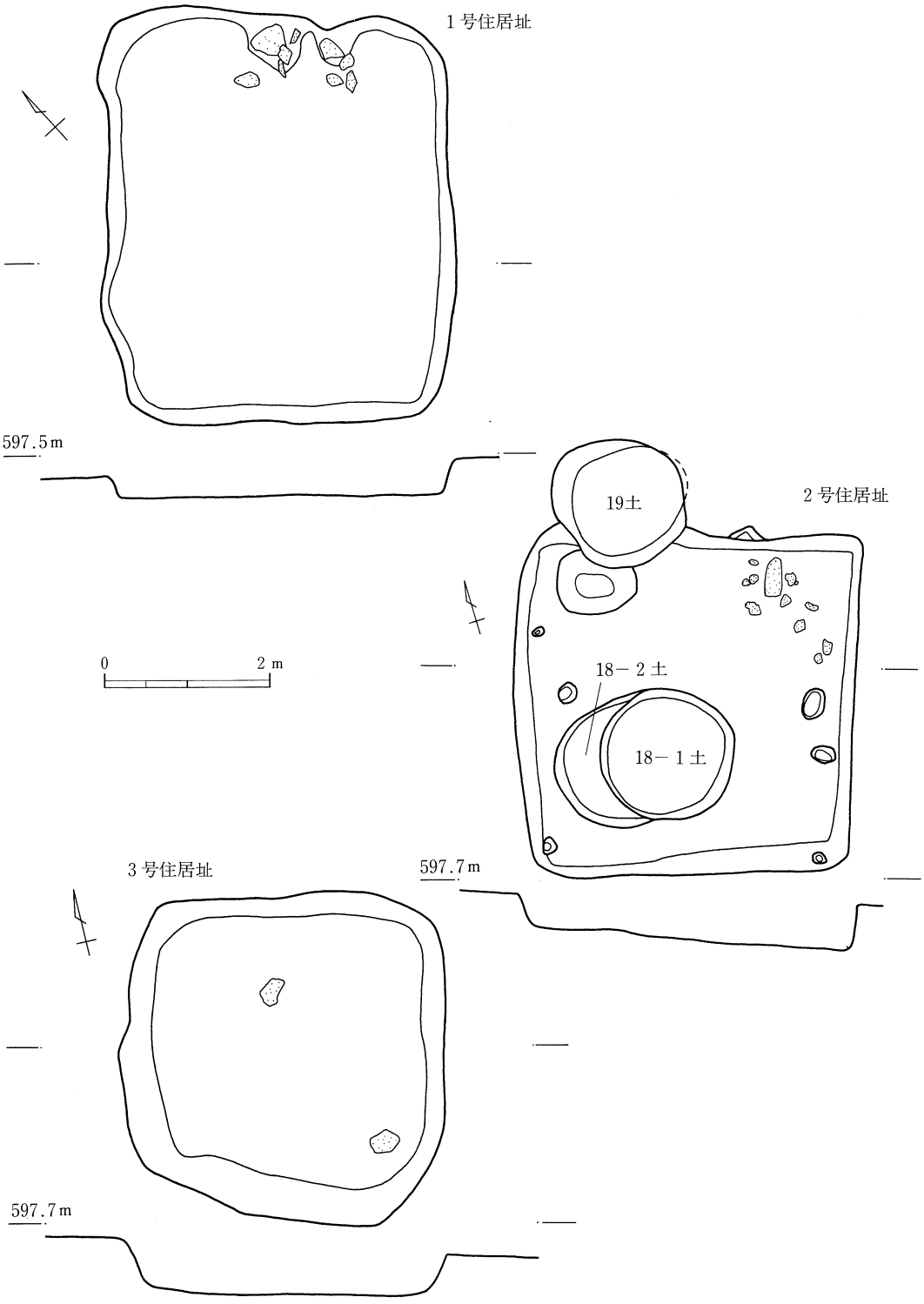
本遺跡は、これまでの詳細分布調査などでは煙滅したものとされてきた。今回の発掘調査は、遺跡の周縁部にかぎられているが、本遺跡の大部分は未だ良好に遺存されていると推定される。今後の調査が期待される。

参考文献

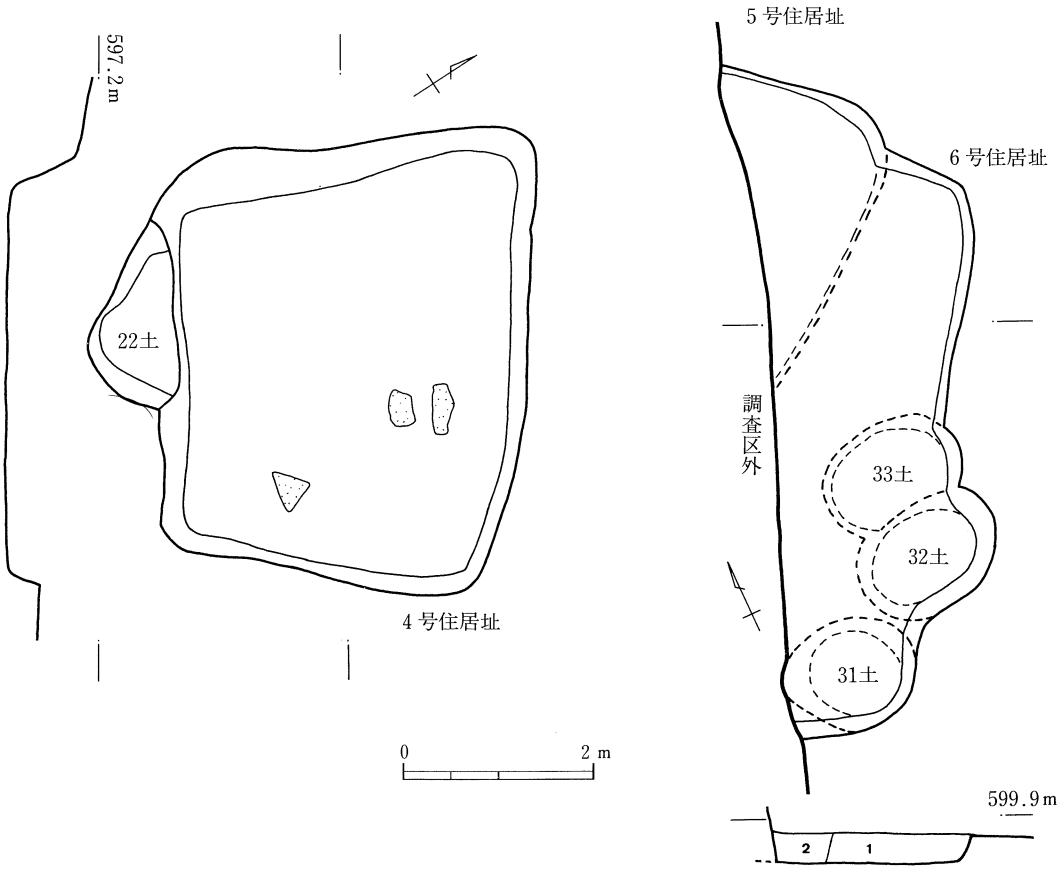
白州町誌編纂委員会　1986　『白州町誌』　白州町
折井　敦　　1988　『坂下遺跡』　白州町教育委員会
折井　敦　　1989　『所帯Ⅰ遺跡・所帯Ⅱ遺跡』　白州町教育委員会
杉本　充　　1991　『屋敷平遺跡』白州町教育委員会


C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
2
3
4
5
6
7
8
4住
2住
3住
1住
F－5
N－3
N－5
597m
598m
599m
600m
基準点
F－5 (X－21,180,000 Y－14,480,000)
N－5 (X－21,260,000 Y－14,480,000)
N－3 (X－21,260,000 Y－14,500,000)
0
20m

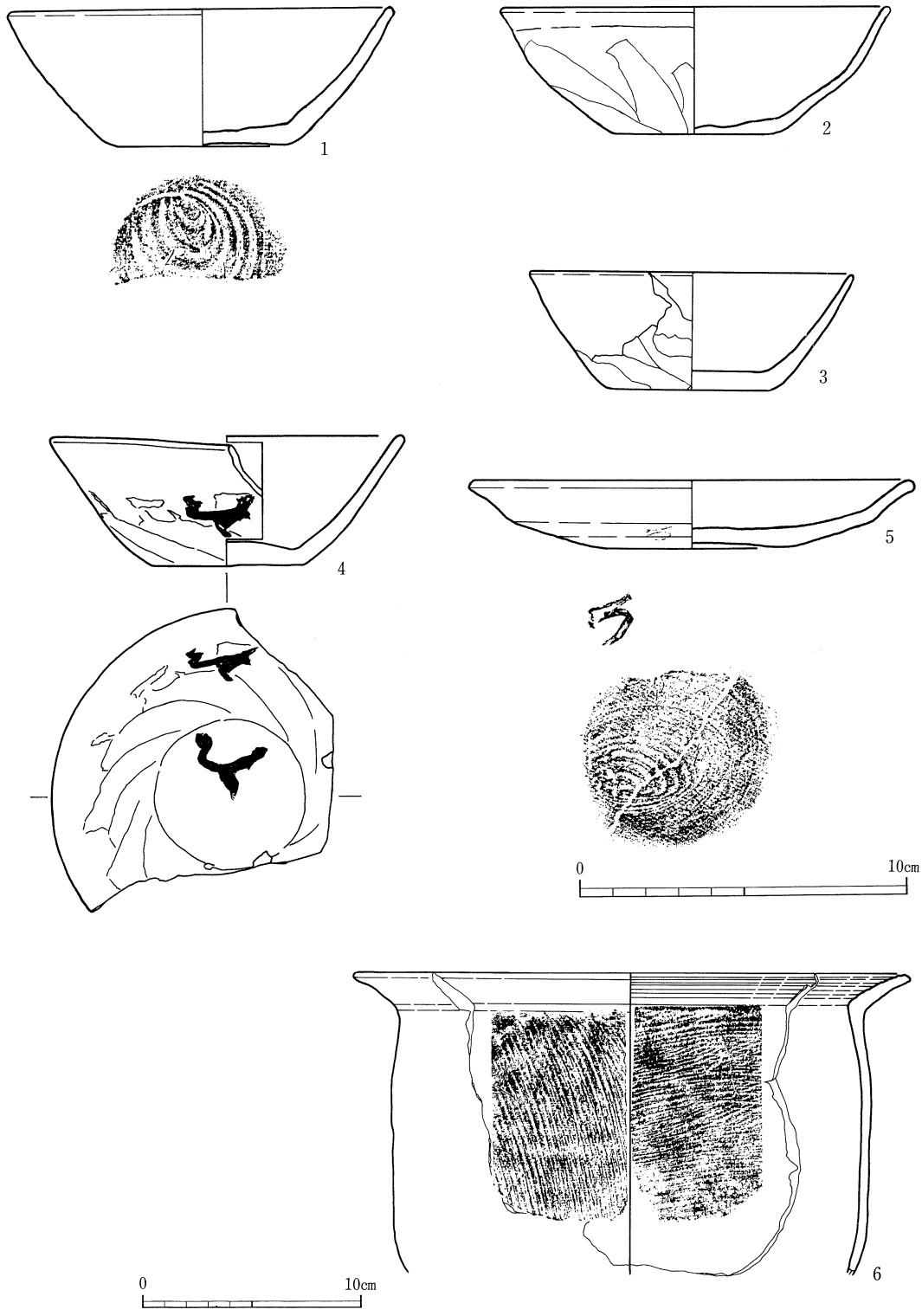
第4図　全測図（1／600）



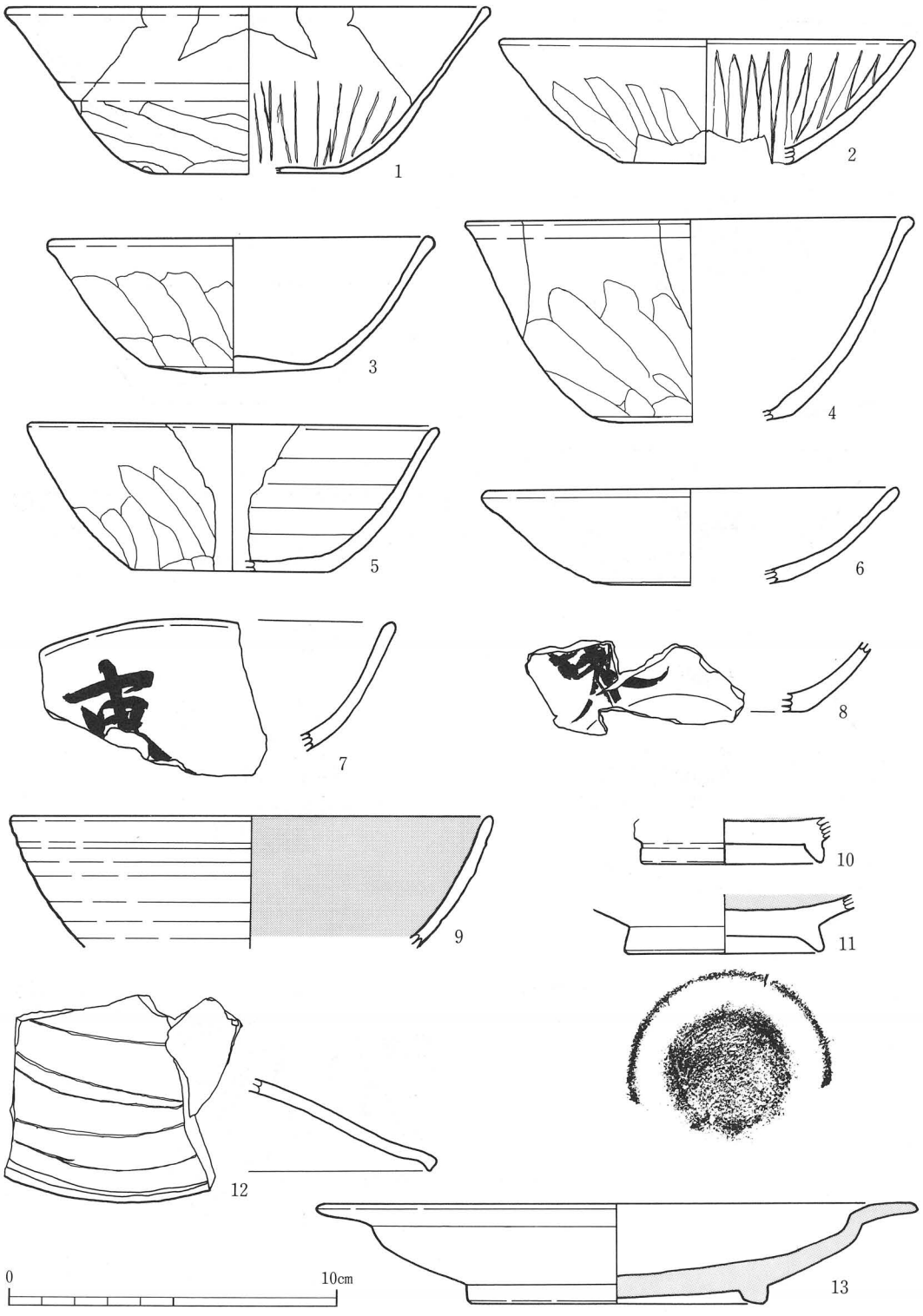
第5図　1・2・3号住居址（1／80）



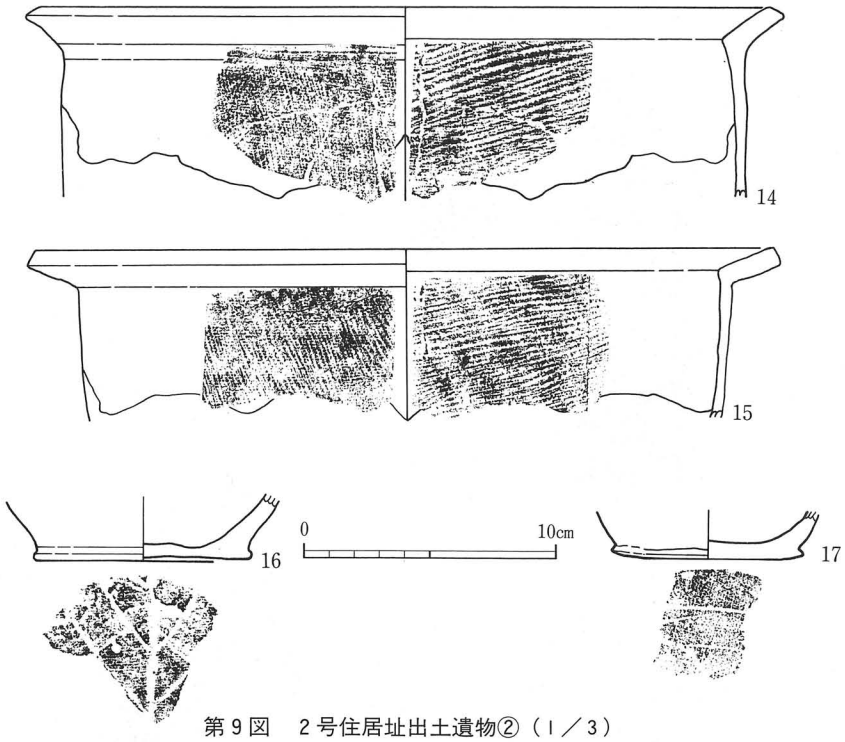
第6図　4・5・6号住居址（1／80）



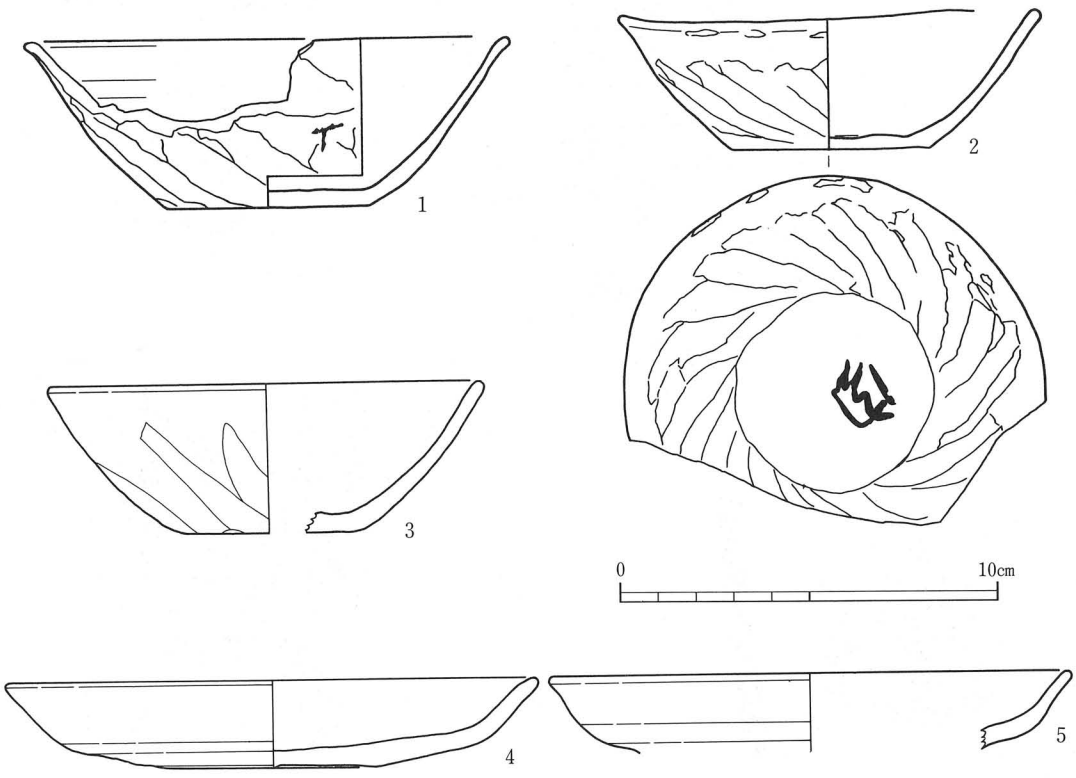
第７図　１号住居址出土遺物（１／２）　６＝１／３



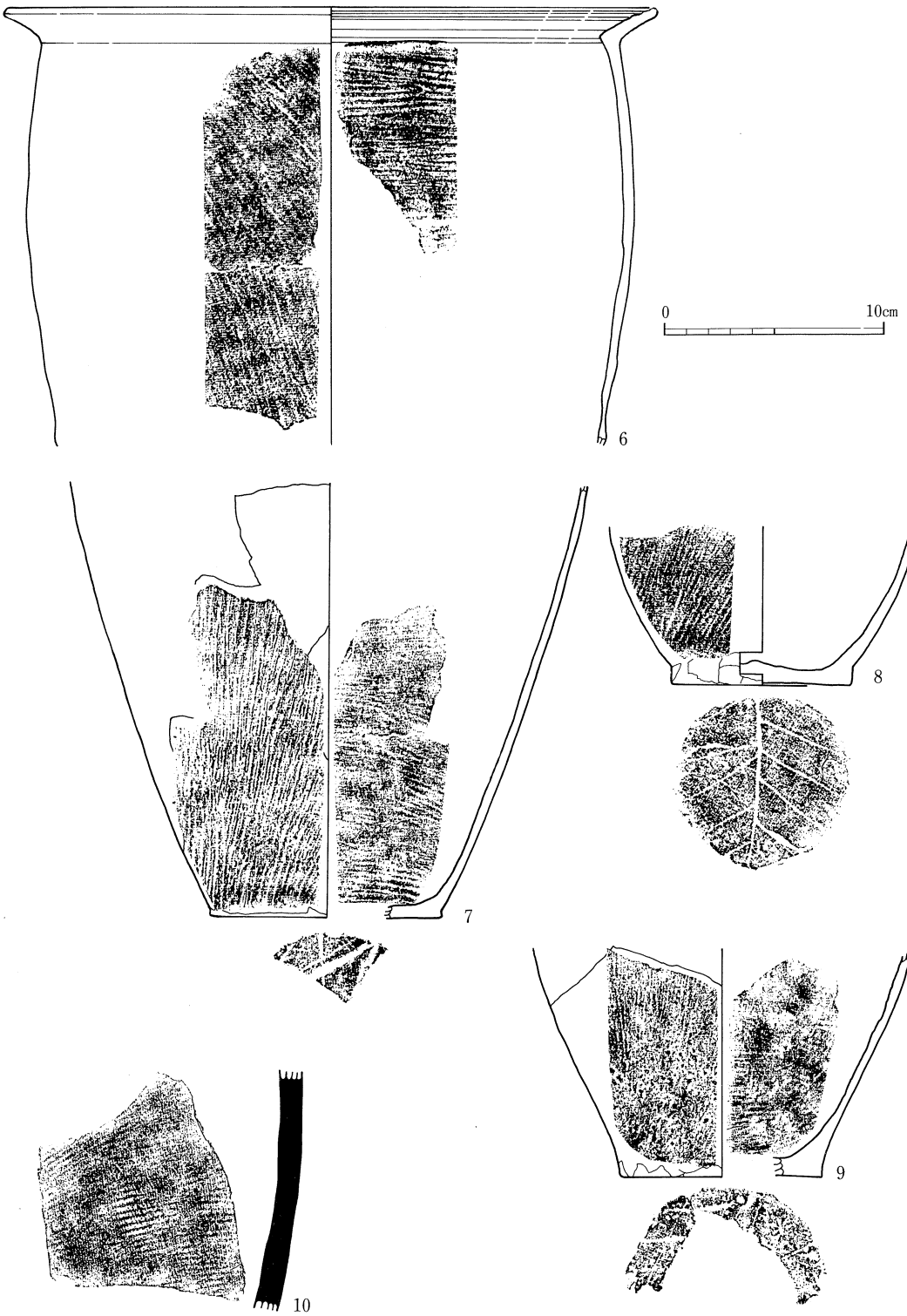
第8図　2号住居址出土遺物①（1／2）



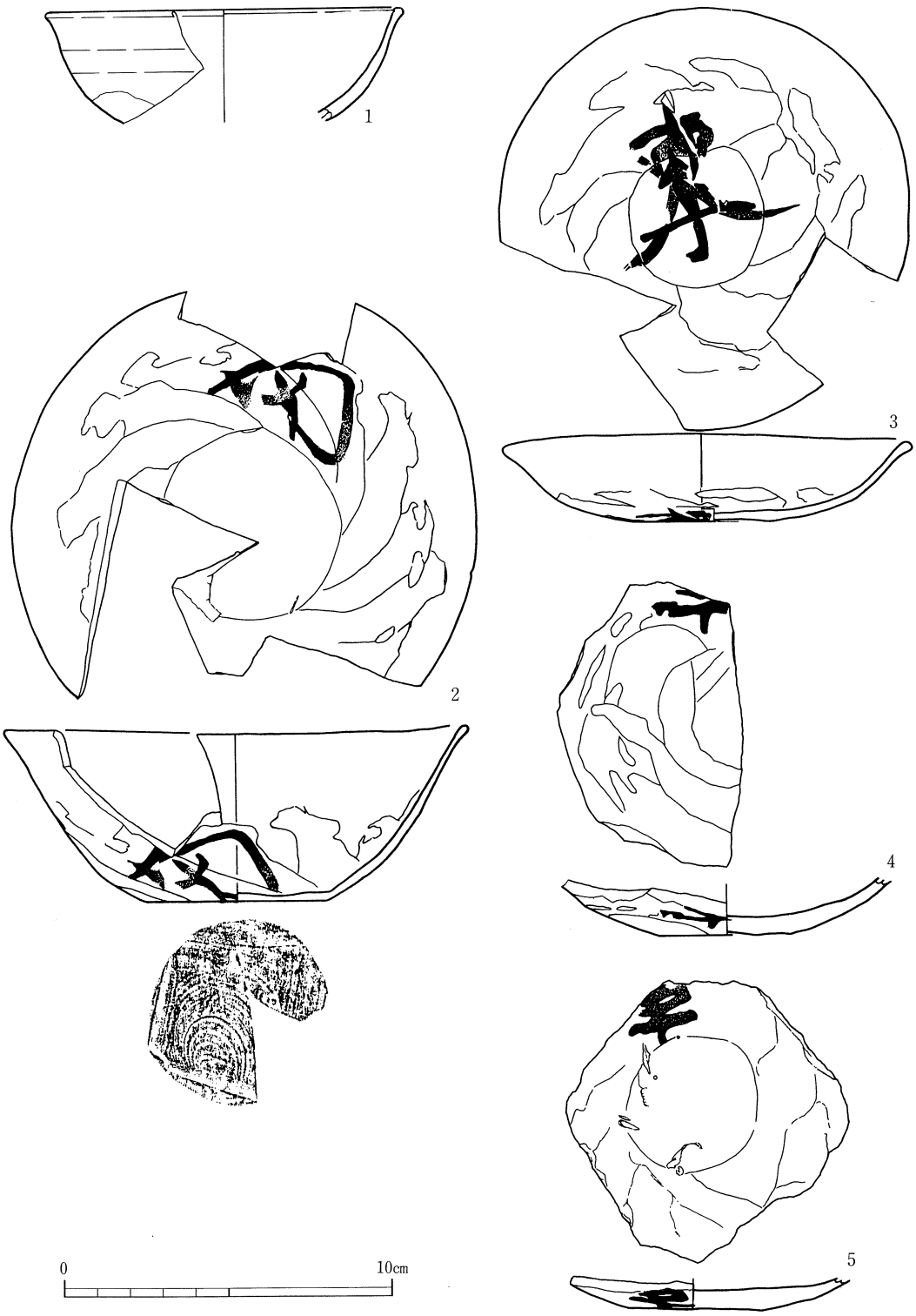
第９図　２号住居址出土遺物②（１／３）



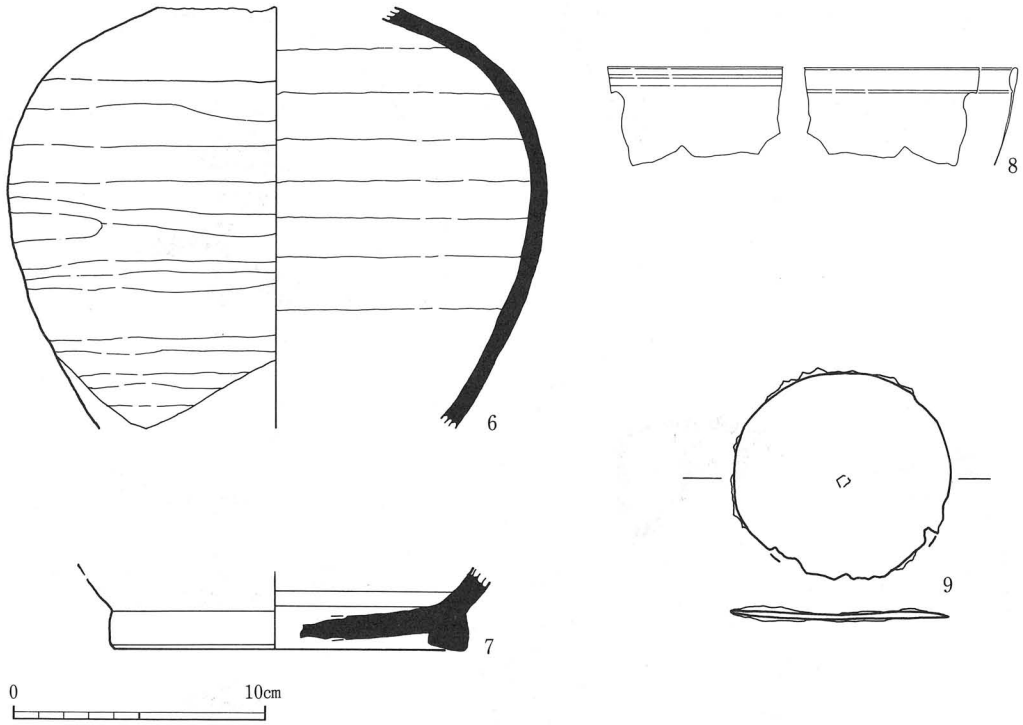
第10図　３号住居址出土遺物①（１／２）



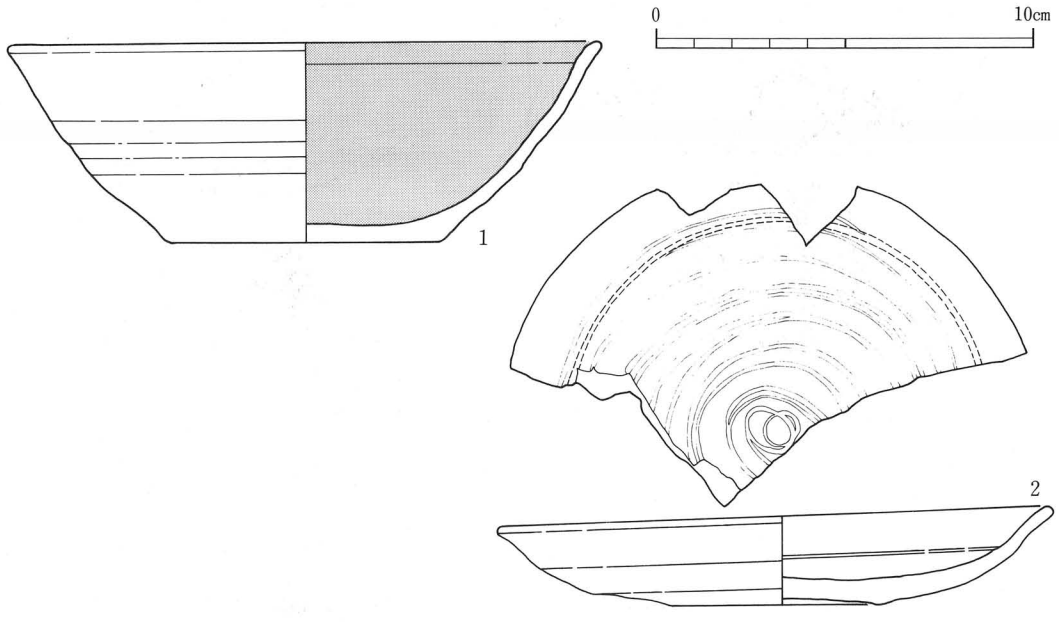
第11図　3号住居址出土遺物②（1／3）



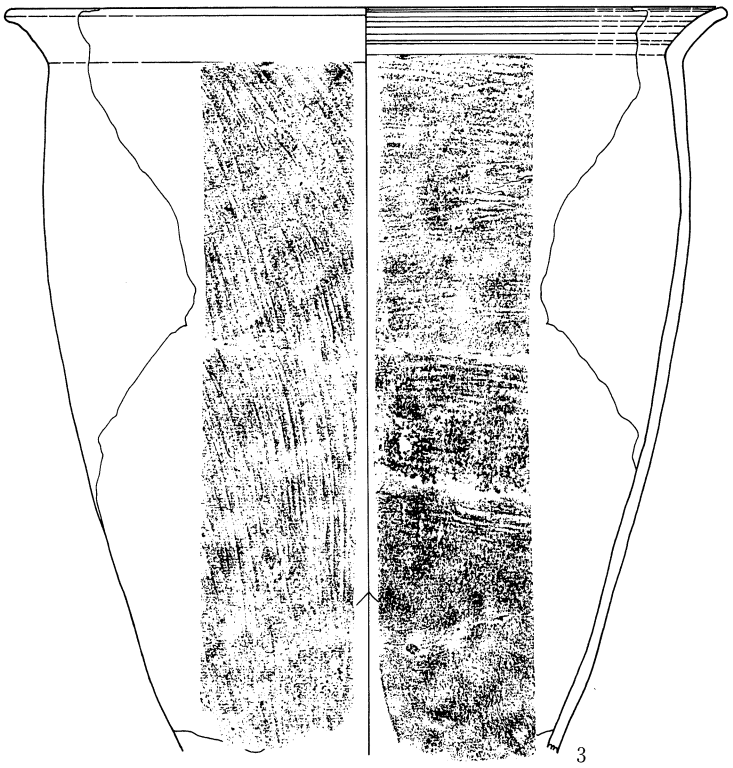
第12図　4号住居址出土遺物①（1／2）

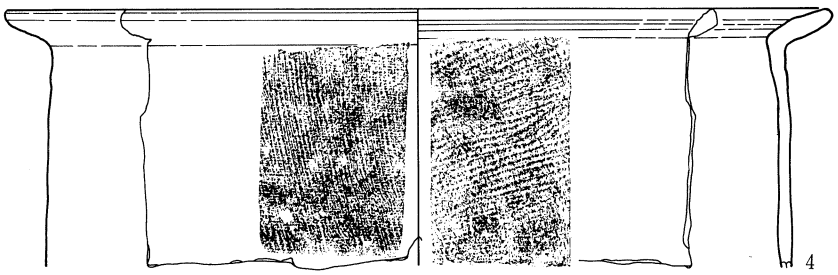


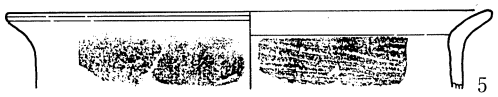
第13図　4号住居址出土遺物②（1／3）　8・9＝1／2

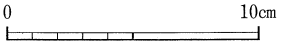


第14図　5号住居址出土遺物①（1／2）

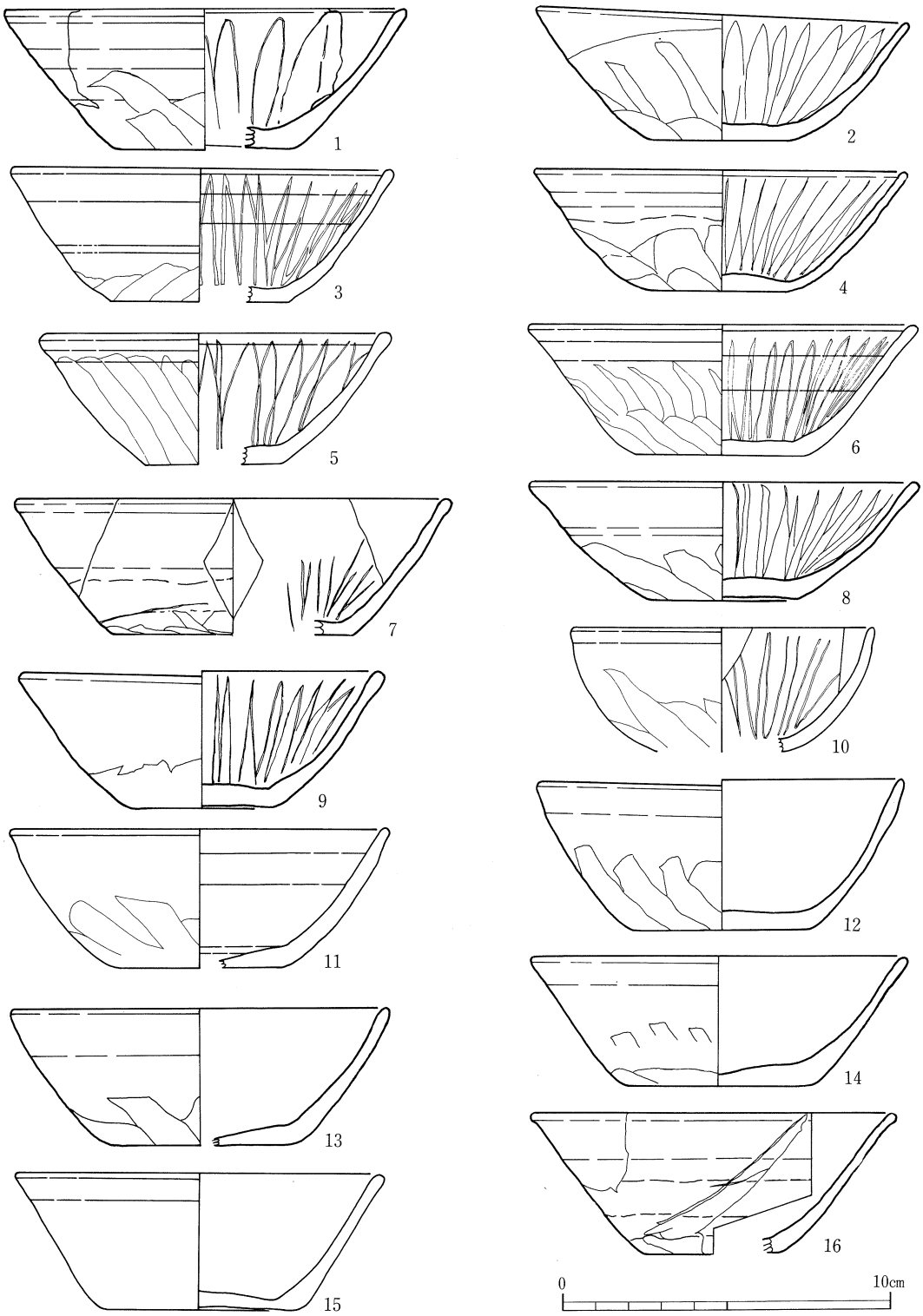




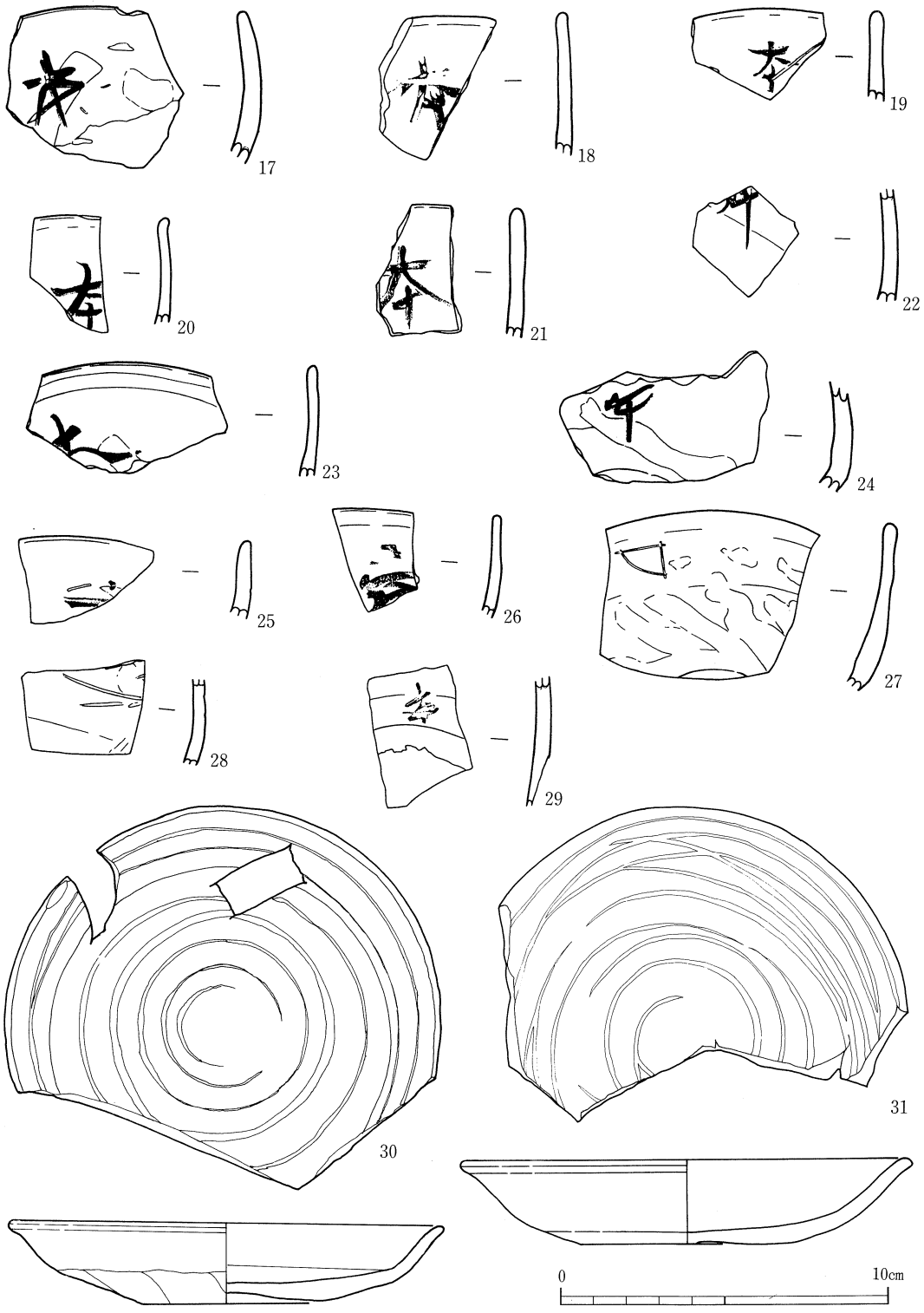




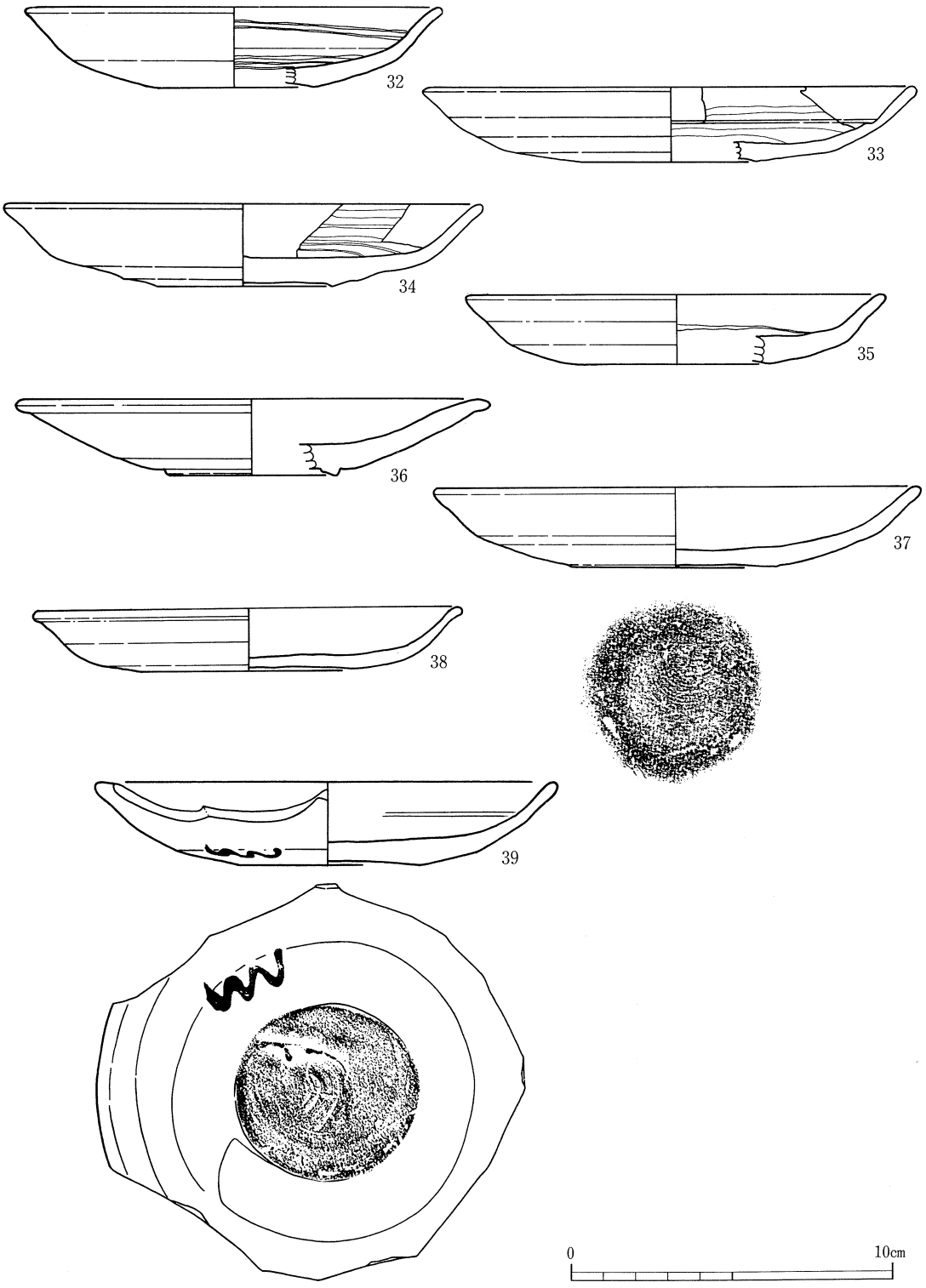
第15図　5号住居址出土遺物②（1／2）



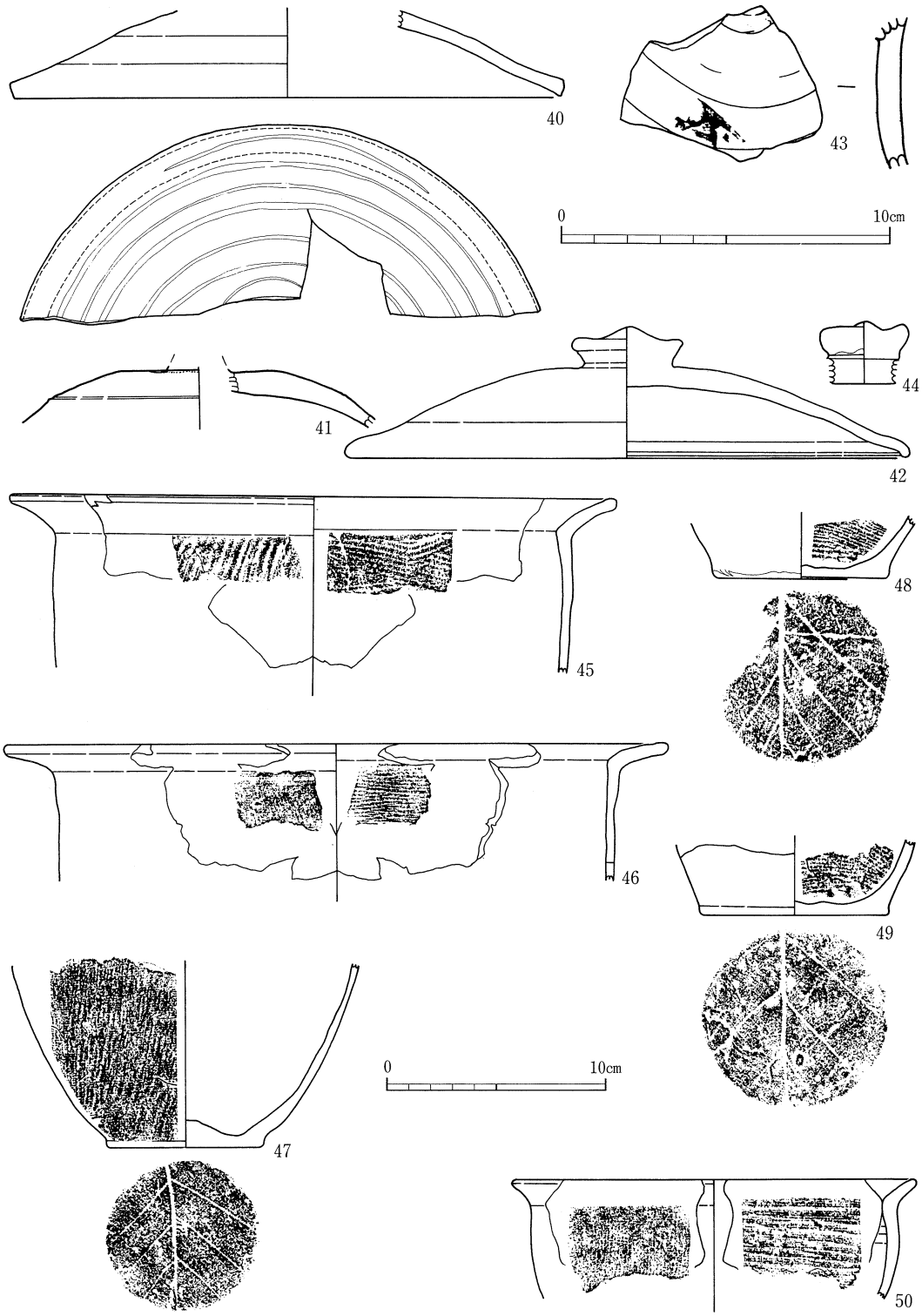
第16図　6号住居址出土遺物①（1／2）



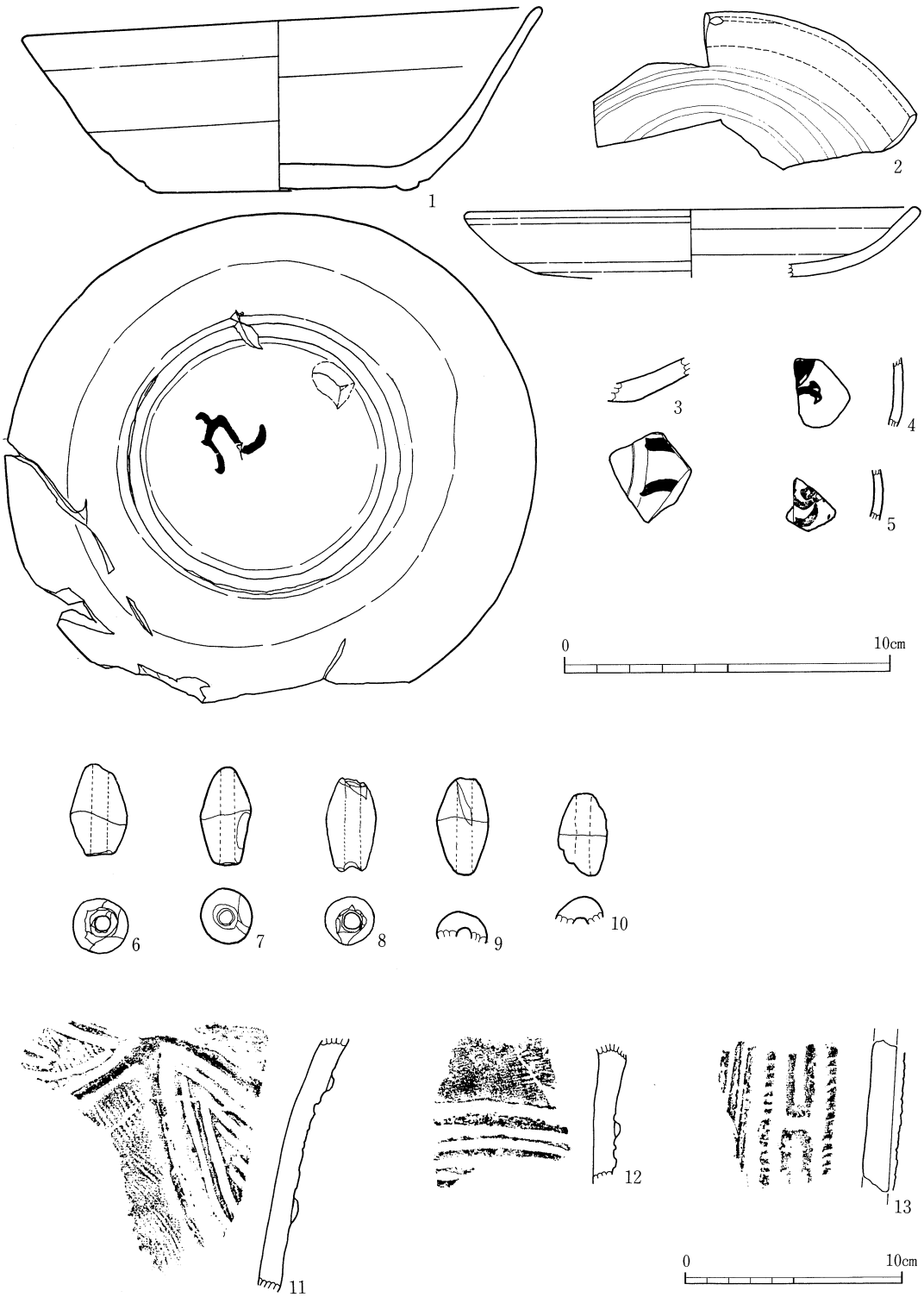
第17図　6号住居址出土遺物②（1／2）



第18図　6号住居址出土遺物③（1／2）



第19図　6号住居址出土遺物④（1／2）　45～50＝1／3



第20図　遺構外出土遺物（1／2）　11～13＝1／3

第3表　1号住居址出土遺物一覧表（第7図）

番号	種　類	器　種	法　量	胎　土	色　調	調　整　・　そ　の　他
1	土師器	坏	(11.8) 5.2 4.2	粗 白色粒子含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底回転糸切り　1/3残
2	土師器	坏	(12.0) 5.0 3.9	密	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で 底ヘラ削り　1/3残
3	土師器	坏	(12.0) 5.0 3.9	やや粗 白色粒子含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で 底ヘラ削り　1/4残
4	土師器	坏	(10.7) 4.0 4.6	赤色粒子多 白色粒子少	橙色 (5YR7/6)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で　放射状暗文 底ヘラ削り　墨書　1/2残
5	土師器	皿	(13.8) 5.6 2.1	やや粗 白色粒子含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外ロクロ撫で　墨書 内ロクロ撫で 底回転糸切り　1/3残
6	土師器	甕	(25.6) — —	雲母 白色粒子含む	赤褐色 (2.5R4/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目

第4表　2号住居址出土遺物一覧表（第8・9図）

番号	種　類	器　種	法　量	胎　土	色　調	調　整　・　そ　の　他
1	土師器	坏	(14.9) 6.0 5.1	やや密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR6/8)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で　放射状暗文 底ヘラ削り　1/8残
2	土師器	坏	(12.4) (5.2) (3.8)	やや密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR6/8)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で　放射状暗文 1/5残
3	土師器	坏	(12.4) 6.2 4.1	やや粗 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (2.5YR4/8)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で 底ロクロ撫で　1/5残
4	土師器	坏	(13.8) (6.2) 6.2	やや密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR6/8)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で 底ヘラ削り　1/8残
5	土師器	坏	(12.6) (6.2) 4.5	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (5YR7/6)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で 底ロクロ撫で　1/5残
6	土師器	皿	(12.8) (4.8) 2.9	赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR6/8)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で
7	土師器	坏	— — —	砂粒含む	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	外墨書 内黒色研磨
8	土師器	坏	— — —	砂粒含む	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	外墨書 内黒色研磨
9	土師器	坏	(14.8) — —	密 白色粒子 赤色粒子少	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫で 内黒色研磨 1/5残

番号	種　類	器　種	法　量	胎　　土	色　　調	調　整　・　そ　の　他
10	土師器	坏	－ 6.3 －	やや密 赤色粒子 白色粒子雲母	黄橙色 (7.5YR7/8)	内黒色研磨　放射状暗文 底回転糸切り付け高台
11	土師器	坏	－ 6.2 －	やや粗 赤色粒子含む	黄橙色 (7.5YR7/8)	内黒色研磨 底回転糸切り付け高台
12	土師器	蓋	－ － －	やや密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR6/8)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で　渦巻状暗文
13	灰　釉 陶　器	皿	(18.4) 9.2 3.1	密 白色粒子含む	灰白色 (10Y8/1)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底付け高台　　1/3残
14	土師器	甕	(30.0) － －	雲母小礫 白色粒子含む	赤褐色 (2.5YR4/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目
15	土師器	甕	(30.0) － －	雲母小礫 白色粒子含む	赤褐色 (2.5YR4/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目
16	土師器	甕	－ － (8.8)	雲母小礫 白色粒子含む	橙色 (5YR6/8)	外縦刷毛目 内ナデ 底木葉痕
17	土師器	甕	－ － (7.6)	雲母小礫 白色粒子含む	橙色 (5YR6/8)	外縦刷毛目 内横刷毛目 底木葉痕

第５表　３号住居址出土遺物一覧表（第10・11図）

番号	種　類	器　種	法　量	胎　　土	色　　調	調　整　・　そ　の　他
1	土師器	坏	12.5 5.3 4.5	赤色粒子 雲母含む	橙色 (5YR7/6)	外下半ヘラ削り　墨書 内ロクロ撫で　放射状暗文 底ヘラ削り　　4/5残
2	土師器	坏	11.1 5.2 3.4	赤色粒子 雲母含む	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で　放射状暗文 底ヘラ削り　墨書　　2/3残
3	土師器	坏	11.6 (4.8) 4.0	白色粒子 赤色粒子含む	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で 底ミガキ　　1/3残
4	土師器	皿	(14.6) (5.6) 2.3	密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底ミガキ　　1/5残
5	土師器	皿	(14.0) － －	やや密 赤色粒子 白色粒子含む	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫でミガキ 内ロクロ撫で
6	土師器	甕	(30.0) － －	雲母小礫含む	明赤褐色 (5YR5/8)	外縦刷毛目 内横刷毛目
7	土師器	甕	－ (10.6) －	雲母小礫含む	明赤褐色 (5YR5/8)	外縦刷毛目 内横刷毛目 底木葉痕

8	土師器	甕	— 8.2 —	雲母小礫含む	明赤褐色 (5YR5/8)	外縦刷毛目 内撫で 底木葉痕
9	土師器	甕	— 9.2 —	雲母小礫含む	明赤褐色 (5YR5/8)	外縦刷毛目 内横刷毛目 底木葉痕
10	須恵器	甕	— — —	小礫含む	褐灰色 (10YR6/1)	外叩き 内撫で

第6表　4号住居址出土遺物一覧表（第12・13図）

番号	種　類	器　種	法　量	胎　　土	色　　調	調　整　・　そ　の　他
1	土師器	坏	(11.0) — —	赤色粒子含む	橙色 (7.5YR6/8)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で
2	土師器	坏	14.0 4.9 5.2	赤色粒子 白色粒子含む	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	外下半ヘラ削り　墨書 内ロクロ撫で　花弁状暗文 底回転糸切り　3/5残
3	土師器	皿	12.4 4.2 2.7	赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR6/6)	外下半～底ヘラ削り　墨書 3/4残
4	土師器	皿	— 4.0 —	赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外墨書　下半～底ヘラ削り 底回転糸切り痕　1/4残
5	土師器	皿	— 4.0 —	赤色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外下半～底ヘラ削り　墨書
6	須恵器	壺	— — —	小礫含む	灰色 (10Y6/1)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で
7	須恵器	甕？	— (15.2) —		灰色 (10Y6/1)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底高台
8	金属器	鋺	— — —	合金？	金・緑色	
9	鉄　器	紡錘車	長 5.8 短 5.4 厚 0.2			円盤部のみ残

第7表　5号住居址出土遺物一覧表（第14・15図）

番号	種　類	器　種	法　量	胎　　土	色　　調	調　整　・　そ　の　他
1	土師器	坏	(15.8) 7.2 5.3	やや密 赤色粒子 白色粒子雲母	にぶい橙色 (5YR7/4)	外ロクロ撫で 内黒色研磨 底回転糸切り痕　2/3残
2	土師器	皿	(14.6) (5.6) 2.6	密 赤色粒子 白色粒子雲母	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫でヘラ 内ロクロ撫で　渦巻状暗文 底ヘラ削り　2/5残

3	土師器	甕	(28.8) — —	白色粒子 雲母小礫含む	明赤褐色 (5YR5/8)	外縦刷毛目 内横刷毛目
4	土師器	甕	(32.8) — —	白色粒子 雲母小礫含む	橙色 (5YR6/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目
5	土師器	甕	(19.4) — —	雲母小礫多	明赤褐色 (5YR5/6)	外縦刷目 内横刷毛目

第8表　6号住居址出土遺物一覧表（第16～19）

番号	種　類	器　種	法　量	胎　土	色　調	調　整・その他
1	土師器	坏	(12.2) 5.4 4.3	密 赤色粒子含む	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で　放射花弁暗文 底回転糸切ヘラ削り　1/8残
2	土師器	坏	(11.4) 4.5 4.1	密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR6/6)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で　放射状暗文 底回転糸切ヘラ削り　1/2残
3	土師器	坏	(11.8) (5.4) 4.1	密 赤色粒子 白色粒子雲母	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で　放射状暗文 底ヘラ削り　1/4残
4	土師器	坏	(11.8) 4.3 3.7	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (7.5YR6/8)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で　放射状暗文 底ヘラ削り　1/4残
5	土師器	坏	(11.8) (5.0) 4.0	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (7.5YR6/8)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で　放射状暗文 底ヘラ削り　1/4残
6	土師器	坏	(12.0) 5.3 4.1	密 赤色粒子 雲母含む	橙色 (7.5YR6/6)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で　放射状暗文 底ヘラ削り　1/2残
7	土師器	坏	(11.8) (5.4) 4.1	密 赤色粒子 白色粒子雲母	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で　放射状暗文 底回転糸切ヘラ削り　1/8残
8	土師器	坏	(12.0) 4.7 3.6	密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で　放射状暗文 底ヘラ削り　1/3残
9	土師器	坏	(11.2) 4.4 4.2	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (7.5YR6/8)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で　放射状暗文 底回転糸切ヘラ削り　1/4残
10	土師器	坏	(9.4) (4.0) 3.8	密 赤色粒子 白色粒子雲母	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で　放射状暗文 底ヘラ削り　1/5残
11	土師器	坏	(11.6) 5.1 4.3	密 赤色粒子 白色粒子雲母	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で 底回転糸切りヘラ削り 1/8残
12	土師器	坏	(11.6) 5.1 4.3	やや密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (7.5YR7/6)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で 底ヘラ削り　1/4残

番号	種類	器種	法量	胎土	色調	調整・その他
13	土師器	坏	(11.6) 5.8 4.0	密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR6/6)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で 底ヘラ削り　1/4残
14	土師器	坏	(11.6) 5.8 4.0	密 赤色粒子 白色粒子含む	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫で下半ヘラ削り 内ロクロ撫で 底ヘラ削り　1/4残
15	土師器	坏	(11.6) 5.1 4.3	密 赤色粒子 白色粒子雲母	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底回転糸切ヘラ削り　1/4残
16	土師器	坏	(11.2) (4.2) 4.3	やや密 赤色粒子 白色粒子含む	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫で　線刻？ 内ロクロ撫で 底ヘラ削り　1/5残
17	土師器	坏	－ － －	密 黒色粒子 赤・白色粒子	橙色 (5YR7/6)	外ヘラ削り　墨書 内暗文
18	土師器	坏	－ － －	赤色粒子 白色粒子含む	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	外　墨書
19	土師器	坏	－ － －	赤・白・黒色 粒子含む	黄橙色 (7.5YR8/8)	外　墨書
20	土師器	坏	－ － －	密	橙色 (5YR7/6)	外墨書 内暗文
21	土師器	坏	－ － －	赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR7/8)	外墨書 内暗文
22	土師器	坏	－ － －	赤・白・黒色 粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外ヘラ削り　墨書
23	土師器	坏	－ － －	密	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外墨書
24	土師器	坏	－ － －	赤・白・黒色 粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外ヘラ削り　墨書 内暗文
25	土師器	坏	－ － －	赤・白・黒色 粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外墨書
26	土師器	坏	－ － －	赤色粒子多	橙色 (7.5YR7/6)	外墨書
27	土師器	坏	－ － －	赤・黒色粒子 含む	橙色 (5YR7/6)	外下半ヘラ削り　刻書 内暗文
28	土師器	坏	－ － －	赤色粒子含む	浅黄橙色 (5YR8/4)	外刻書 内暗文

番号	種　類	器　種	法　量	胎　土	色　調	調　整・その他
29	土師器	皿	－ － －	赤色粒子多	橙色 (5YR7/6)	外墨書 内渦巻状暗文
30	土師器	皿	13.4 5.3 2.6	密 赤色粒子 白色粒子雲母	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で渦巻状暗文 底回転糸切ヘラ削り　3/4残
31	土師器	皿	(14.1) 6.4 2.6	密 赤色粒子 白色粒子雲母	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫で下部ヘラ削り 内ロクロ撫で　渦巻状暗文 底ヘラ削り　2/3残
32	土師器	皿	(13.0) (5.0) 2.5	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (5YR6/8)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で　渦巻状暗文 底ヘラ削り　1/2残
33	土師器	皿	(15.5) (5.4) 2.4	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (5YR6/8)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で　渦巻状暗文 底ヘラ削り　1/8残
34	土師器	皿	(15.0) 5.4 2.6	密 赤色粒子 白色粒子雲母	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で　渦巻状暗文 底ヘラ削り　1/2残
35	土師器	皿	(13.2) (5.8) 2.2	密 赤色粒子 白色粒子雲母	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で　渦巻状暗文 1/3残
36	土師器	皿	(14.8) 5.4 2.6	やや密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (7.5YR7/6)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 底削出高台
37	土師器	皿	(15.2) 6.4 2.5	やや粗 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (5YR6/6)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で　渦巻状暗文 底回転糸切りヘラ削り
38	土師器	皿	(13.4) (6.6) 1.9	密 赤色粒子 白色粒子雲母	黄橙色 (7.5YR7/8)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で 1/4残
39	土師器	皿	(14.1) 5.6 2.6	黒色粒子 赤色粒子	橙色 (5YR7/6)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で　渦巻状暗文 底回転糸切ヘラ削り　3/4残
40	土師器	蓋	(17.0) － －	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (7.5YR6/8)	外ロクロ撫で上半ヘラ削り 内ロクロ撫で　渦巻状暗文 1/3残
42	土師器	蓋	－ － －	やや粗 赤色粒子 白色粒子雲母	黄橙色 (7.5YR8/8)	外ヘラ削り 内ロクロ撫で 1/4残
42	土師器	蓋	(17.4) － 4.0	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (5YR7/8)	外ロクロ撫で上半ヘラ削り 内ロクロ撫で 1/3残
43	土師器	蓋	－ － －	密	橙色 (5YR7/6)	外ロクロヘラ削り　墨書
44	土師器	蓋	－ － －	密 赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (7.5YR7/6)	外ロクロ撫で 内ロクロ撫で つまみ部のみ

番号	種　類	器　種	法　量	胎　　土	色　　調	調　整　・　そ　の　他
45	土師器	甕	(30.4) — —	雲母小礫 白色粒子含む	赤褐色 (5YR5/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目
46	土師器	甕	(27.8) — —	雲母小礫 白色粒子含む	橙色 (5YR6/6)	外縦刷毛目 内横刷毛目
47	土師器	甕	— — 7.2	雲母小礫 白色粒子含む	赤褐色 (5YR5/6)	外縦刷毛目 内ナデ調整 底木葉痕
48	土師器	甕	— — 8.0	雲母小礫 白色粒子含む	橙色 (5YR6/8)	外縦刷毛目 内横刷毛目 底木葉痕
49	土師器	甕	— — 8.4	雲母小礫 白色粒子含む	明赤褐色 (5YR5/8)	外縦刷毛目ナデ調整 内横刷毛目 底木葉痕
50	土師器	甕	(18.6) — —	雲母小礫 白色粒子含む	明赤褐色 (5YR5/6)	外縦刷毛目 内クシ目

第９表　遺構外出土一覧表（第20図）

番号	種　類	器　種	法　量	胎　　土	色　　調	調　整　・　そ　の　他
1	土師器	坏	15.8 7.6 5.3	赤色粒子 白色粒子含む	橙色 (5YR7/6)	外下半ロクロヘラ削り 内ロクロ撫で 底削出高台　墨書　　N-2区
2	土師器	皿	(18.6) (6.2) (2.1)	密 赤色粒子 雲母含む	橙色 (7.5YR7/8)	外下半ロクロヘラ削り 内ロクロ撫で　渦巻状暗文
3	土師器	皿	— — —	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (5YR6/6)	外ヘラ削り・墨書 内ロクロ撫で　暗文？
4	土師器	坏	— — —	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (7.5YR7/6)	外ロクロ撫で　墨書 内ロクロ撫で
5	土師器	坏	— — —	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (7.5YR7/6)	外ロクロ撫で　墨書 内ロクロ撫で
6	土製品	土　錘	長(2.9 幅 1.7 孔 0.5	密 白色粒子 雲母含む	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	
7	土製品	土　錘	長 3.0 幅 1.7 孔 0.4	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (7.5YR7/6)	
8	土製品	土　錘	長(2.9 幅 1.5 孔 0.5	密 白色粒子 雲母含む	にぶい橙色 (7.YR6/4)	
9	土製品	土　錘	長 3.0 幅 1.6 孔 0.5	密 赤色粒子 白色粒子雲母	橙色 (7.5YR7/6)	

10	土製品	土　錘	長(2.6 幅(1.5 孔 0.5	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (7.5YR7/6)	
11	縄　文 土　器	深　鉢	－ － －	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (5YR6/6)	縄文地文 横の平行沈線 中期前半
12	縄　文 土　器	深　鉢	－ － －	密 白色粒子 雲母含む	橙色 (5YR6/6)	縄文地文 貼付凸帯 中期前半
13	縄　文 土　器	深　鉢	－ － －	密 白色粒子 雲母含む	黄橙色 (7.5YR7/8)	縦の平行沈線 押引貼付凸帯 中期前半

図　　版

全　景（空撮　北東から南西へ）

図版 2

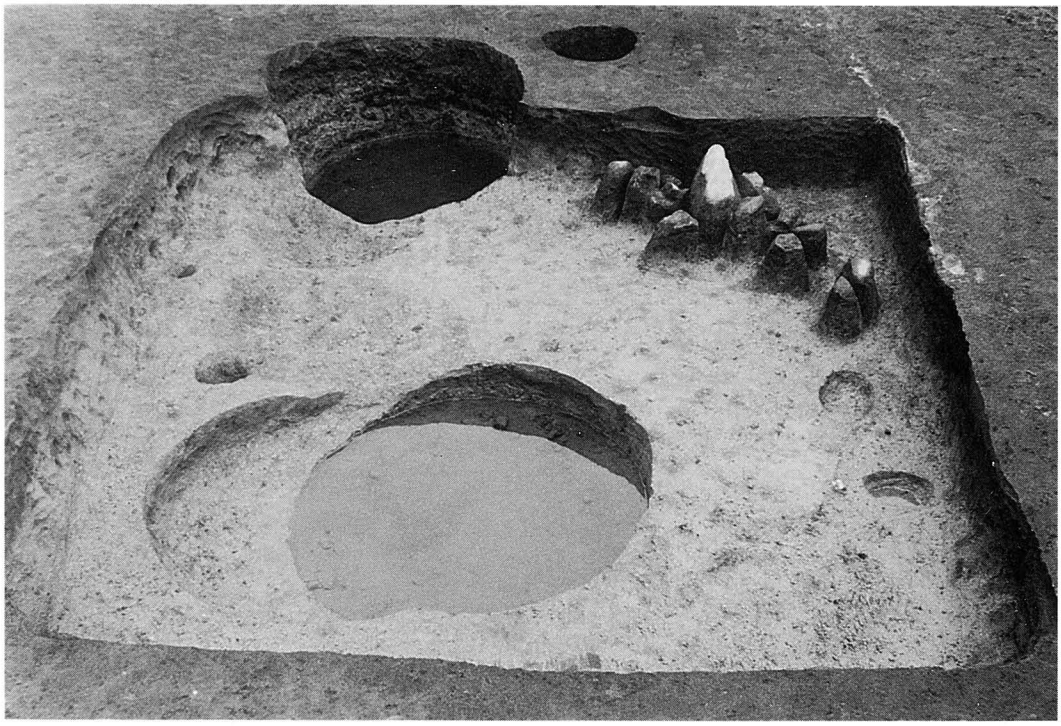
近　景（中央から南へ）

近　景（北から南へ）

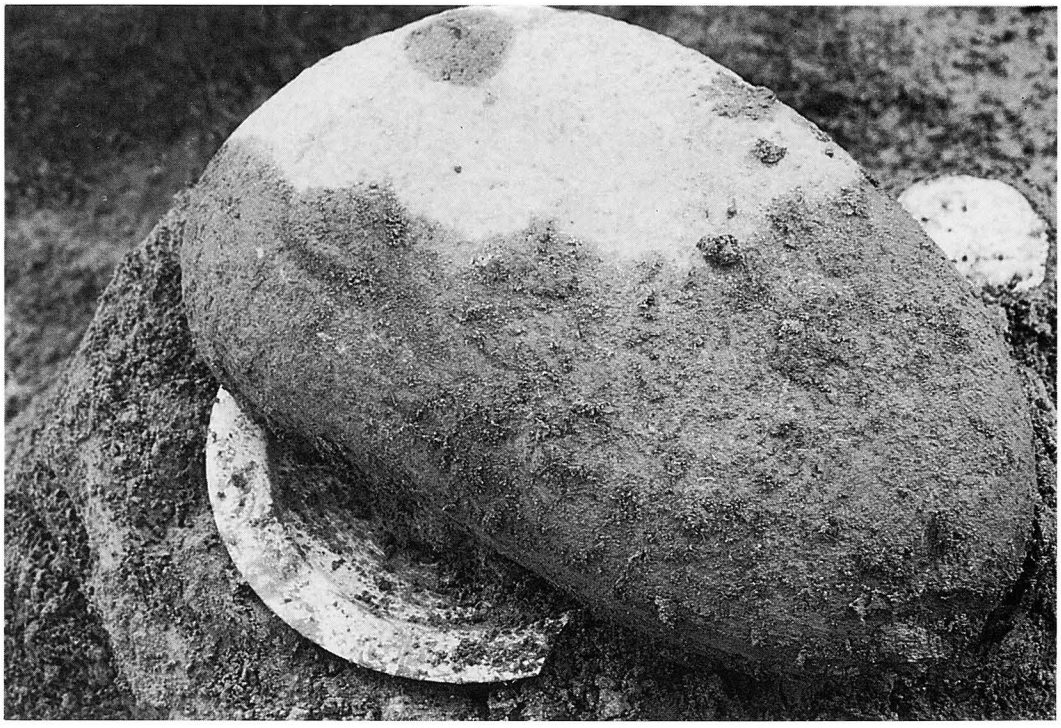
1 号住居址

1 号住居址　カマド

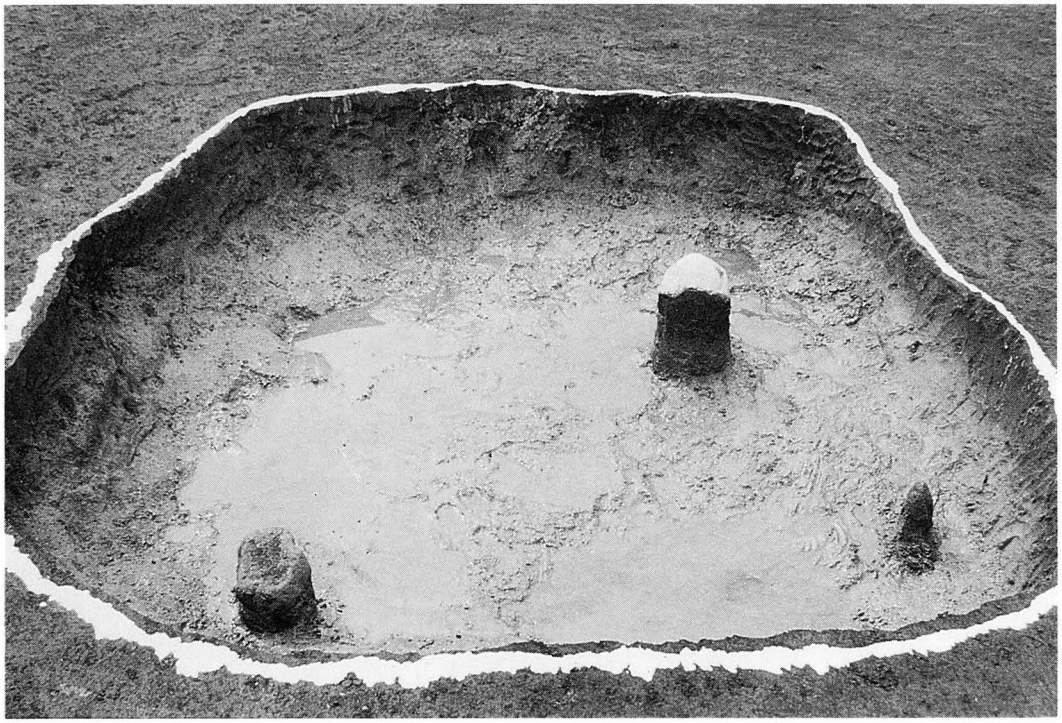
図版 4



2 号住居址



2 号住居址（灰釉出土状態）



3 号住居址

4 号住居址

図版 6

5 ・ 6 号住居址

土坑群

付編　旧菅原小学校遺跡白州町小学校体育館地点

1　調査に至る経緯と経過

平成６年５月に白州町小学校体育館が、原因不明の火災により焼失したため、同地点に再建することとなった。発掘調査は現場検証などが終り残骸が撤去されたあと、８月15日から町教育委員会により開始された。

調査は、重機により残された基礎及び表土を排除した後、人力で遺構を確認し掘り下げた。平安時代の竪穴住居址は、基礎の15cm下から検出された。調査区の北側については、かなり削平され、南側は埋土されている。埋土中からは、夥しい量の縄文時代中期後半の土器が、明治時代のものと思われる陶器片とともに検出された。１号住居址周辺の調査終了後、埋土部分から遺物を取り上げ８月26日に150㎡の調査を完了した。

2　遺構と遺物

遺構については、平面プランを確認した時点では数軒の竪穴住居址が重複しているものと思われたが、火災の痕跡と遺物により確認された１号住居址を除き、残りの部分については遺物もほとんど見られず土坑の重複も多く住居址としては確認されえなかった。

遺物については、調査区南側の埋土中の縄文時代中期後半の土器が主体である。

１号住居址（第２図）

隅丸方形を呈し、3.8×3.5ｍを測る。全面に焼土と炭化材が検出され焼失住居と確認された。北東隅のピットには甕（第３図－３）が埋められていた。カマドは、ほとんど破壊されていたが北壁東寄りと推定された。

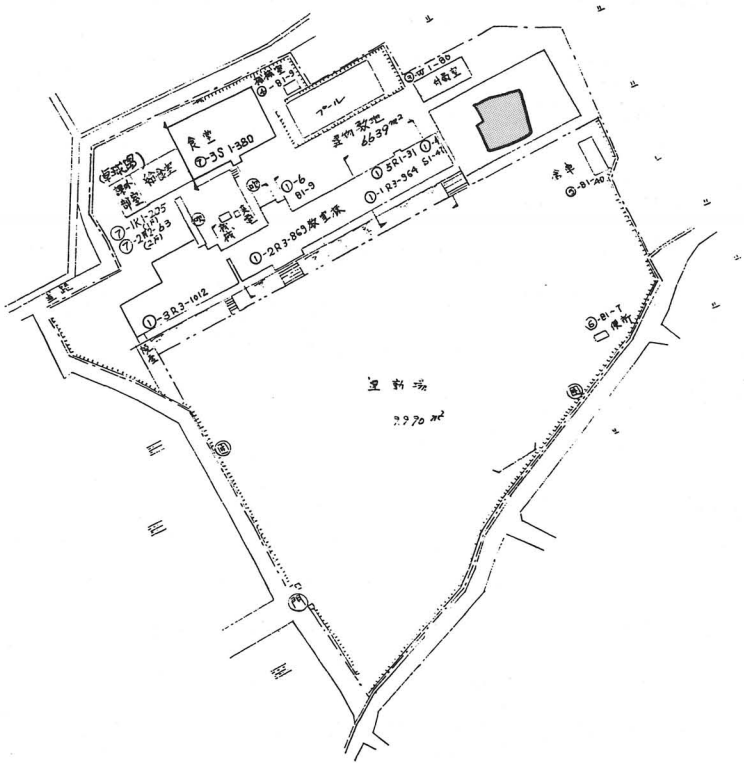
１号土坑（第２図）

調査区北西部に位置する。平面形はほぼ正円形で、検出面115×111cm、底面112×105cm、深さ35cmを測る。覆土は、ローム粒を含む暗褐色土である。

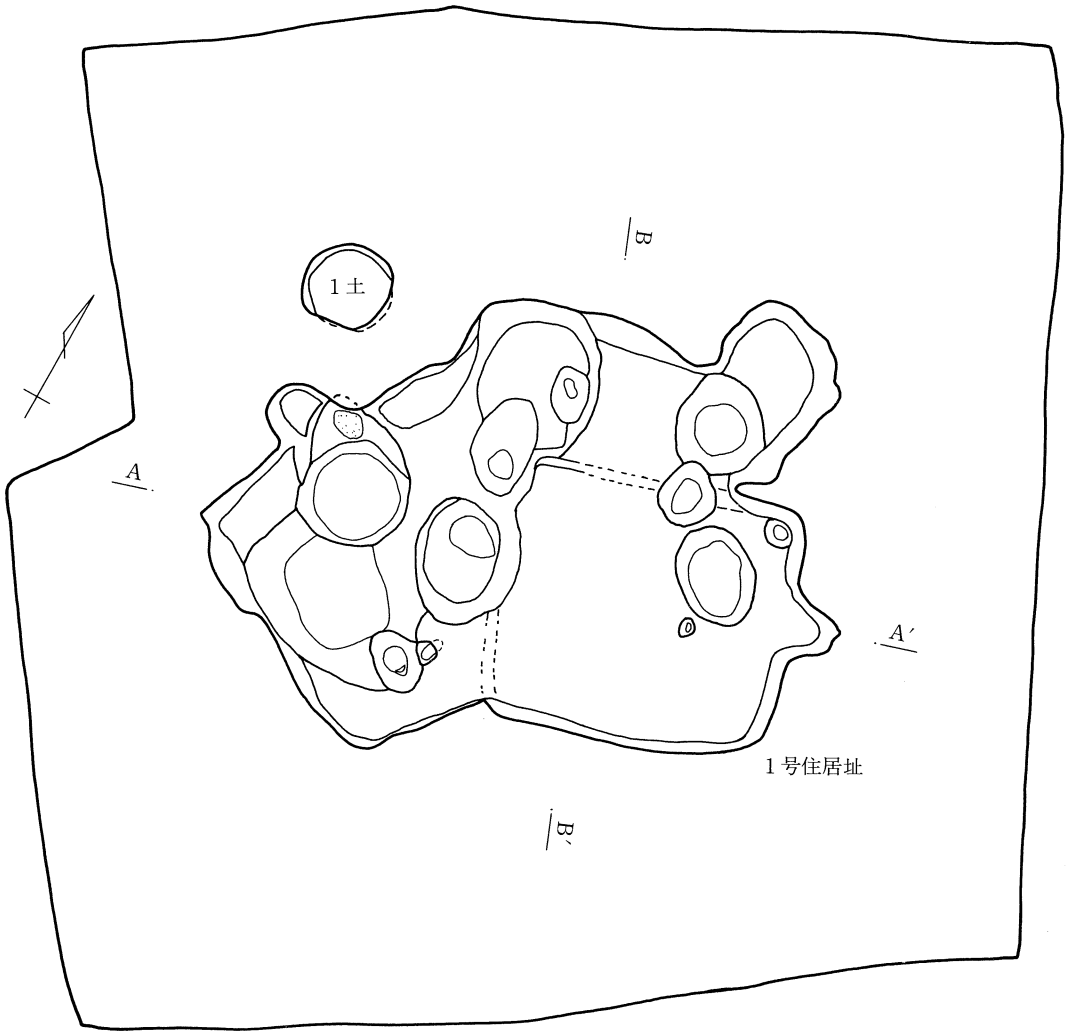
3　ま と め

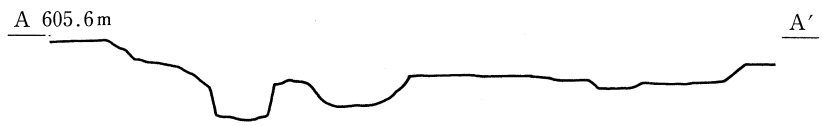
本遺跡位置は、現在の白州小学校と全く重なっているものと考えられてきたが、これまでの調査等により北に移動していき、中心の位置は小学校敷地からさらに北にあることが明らかになってきている。今回の調査では、体育館の北側部分で縄文時代中期後半の遺構がかなり破壊されて

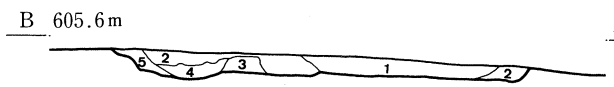
いることが確認された。削平された時期は明治時代であろうと推測されるが、数度の建て替えが記録されどの時点で破壊されたかは不明である。



第１図　調査区位置図（１／2,000）

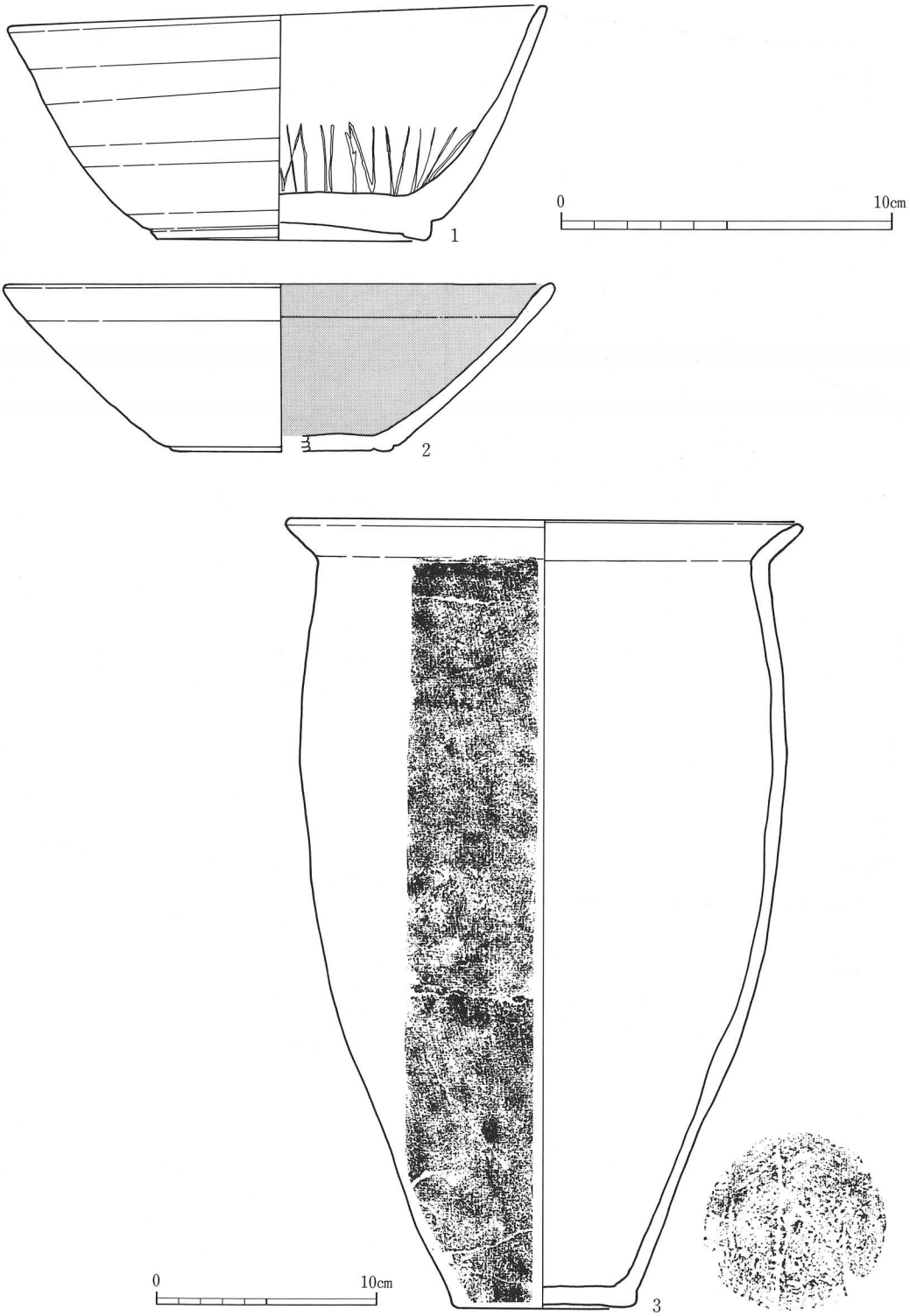




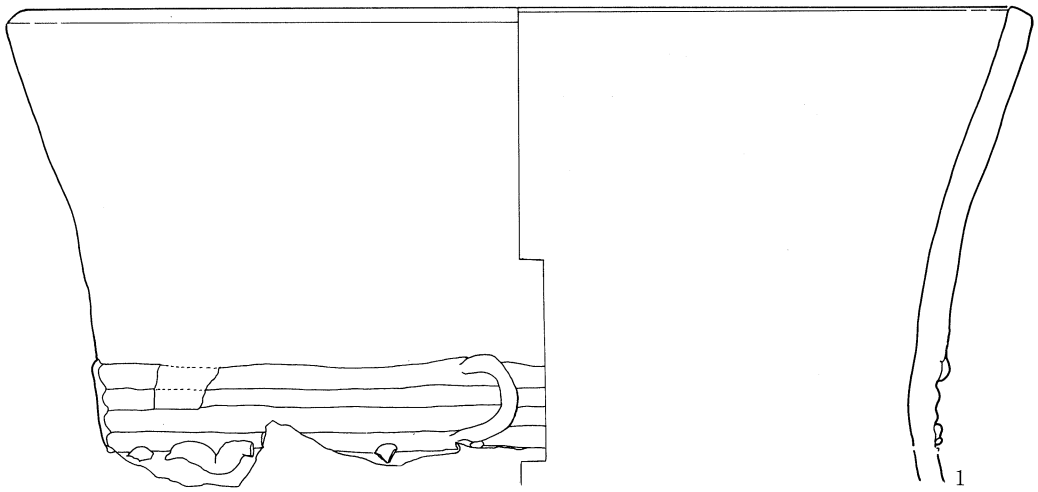


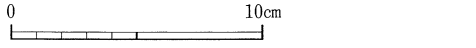
1　暗褐色土　粘性0　やや粗　焼土・炭化材含む
2　暗褐色土　粘性0　密　焼土・炭化材少量含む
3　黄褐色土　粘性小　やや密
4　暗褐色土　粘性0　密
5　黄褐色土　粘性小　密

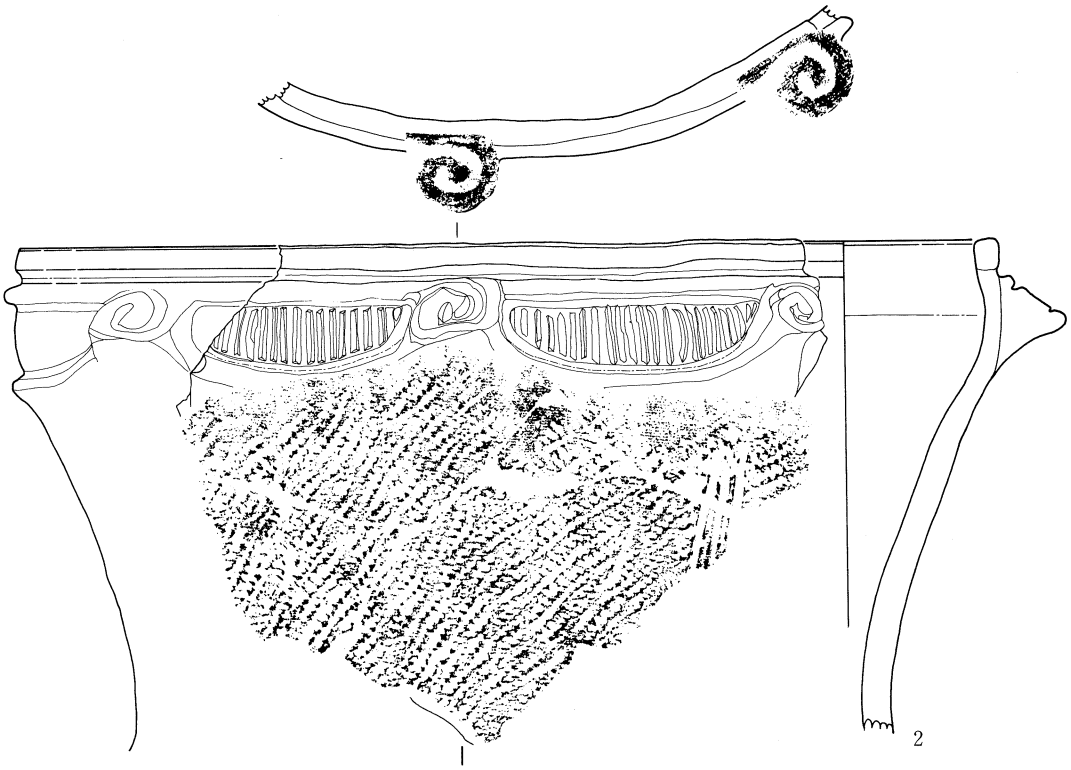
第2図　全体図（1／100）



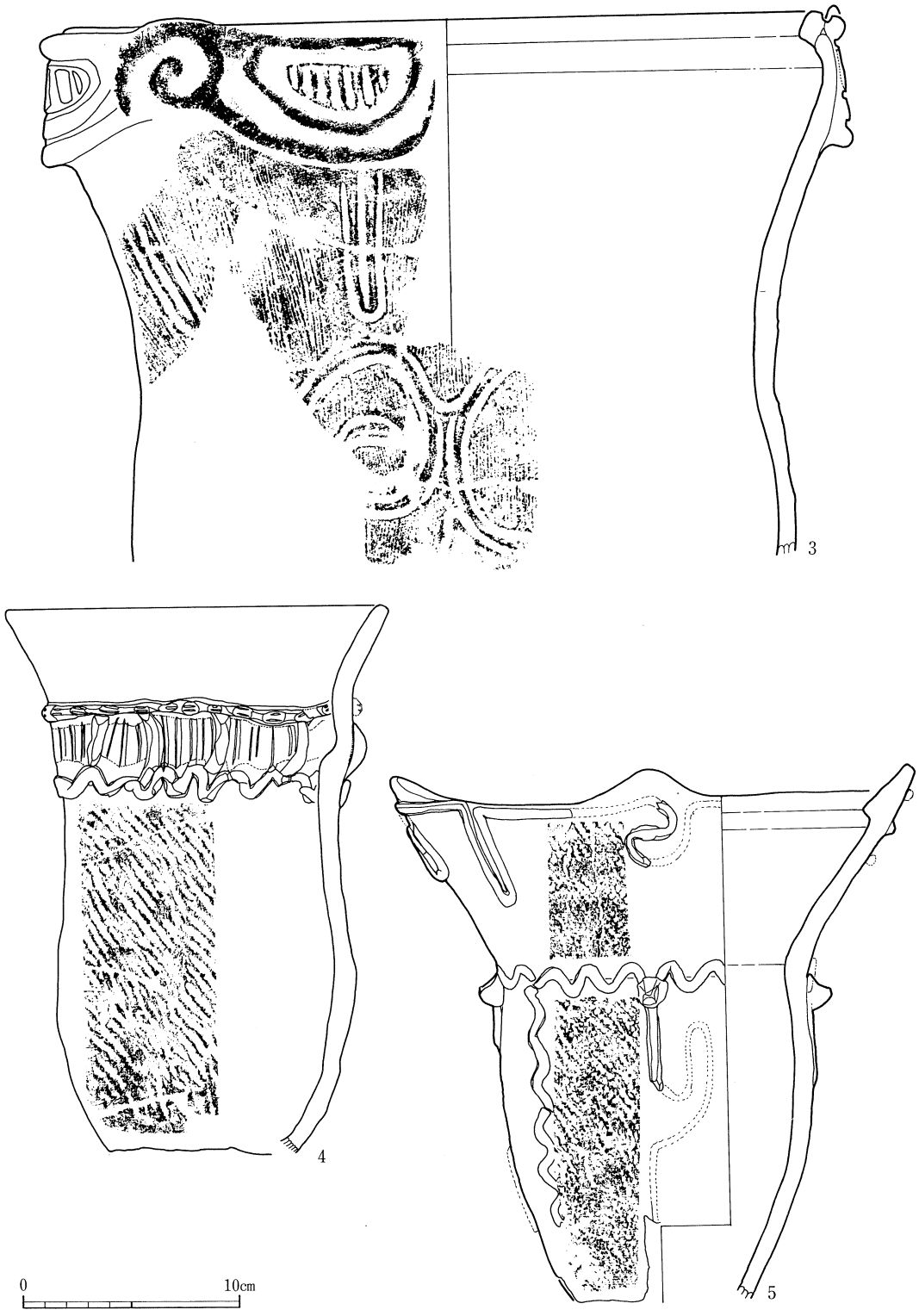
第３図　１号住居址出土遺物（１／２）　３＝１／３



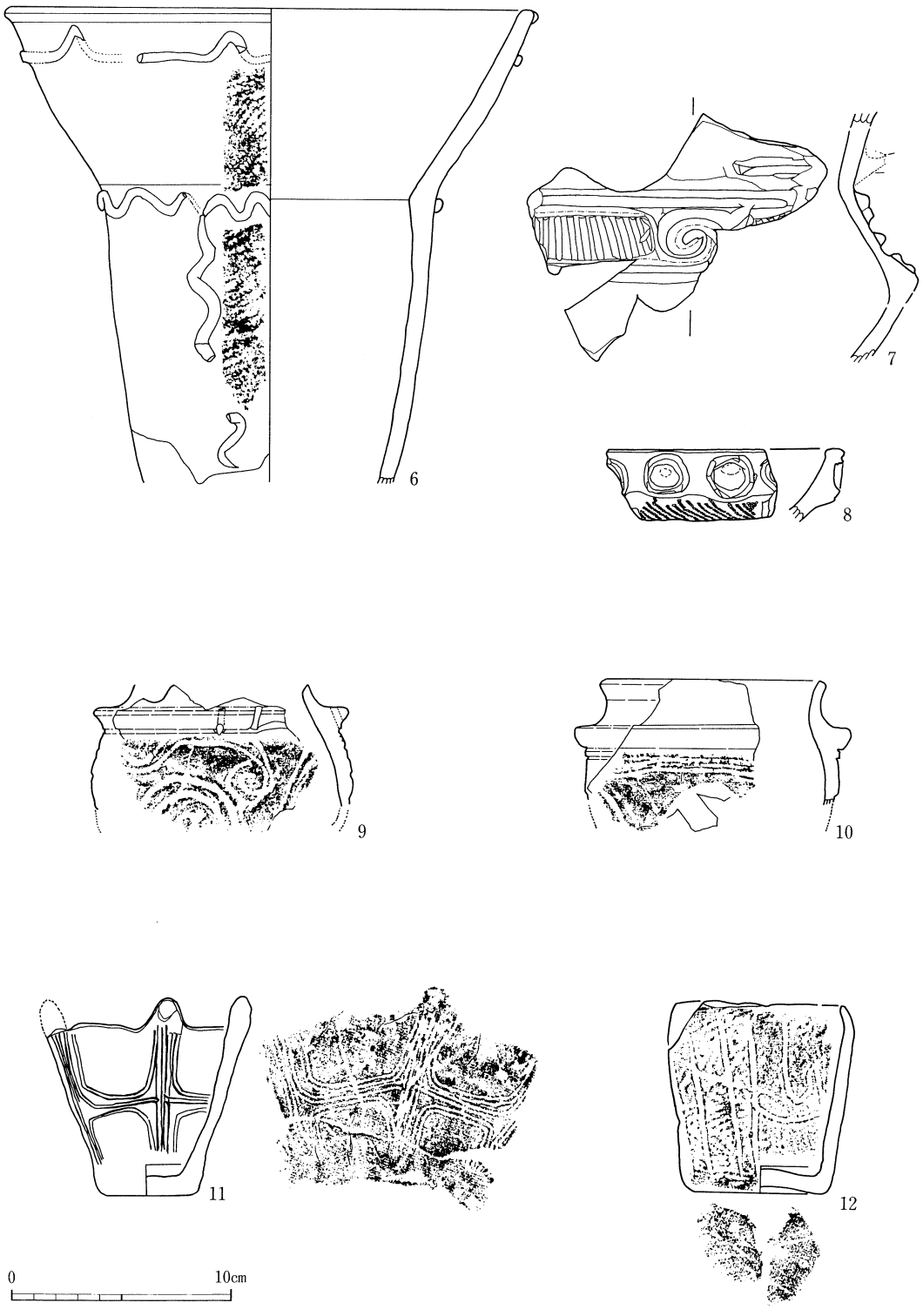




第４図　遺構外出土遺物①（１／３）



第5図　遺構外出土遺物②（1／3）



第6図　遺構外出土遺物③（1／3）

全　景（遺構確認面　西から東へ）

全　景（調査後　東から西へ）

付編図版 2

1 号住居址（炭化材出土状態）

1 号住居址（カマド東側出土状態）

調査風景

1 号住居址

報告書抄録

ふりがな	きゅうすがはらしょうがっこういせき
書名	旧菅原小学校遺跡
副書名	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	杉本　充
編集機関	白州町教育委員会
所在地	〒408-03　山梨県北巨摩郡白州町白須312　TEL0551-35-2800
発行年月日	1997年3月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
きゅうすがはらしょう 旧菅原小 がっこういせき 学校遺跡	やまなしけん 山梨県 きたこまぐん 北巨摩郡 はくしゅうちょう 白州町 しらすあざやなぎはら 白須字柳原 168　他	194085		35° 18′ 30″	138° 20′ 21″	19930610 ～ 19930902 （1次）	4,350	県営圃場整備事業
						19940816 ～ 19940826 （2次）	150	小学校体育館建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
旧菅原小学校遺跡	集落址	平安時代 中世	竪穴住居址7軒 土坑44基	土師器	平安時代の4号住居址から佐波理鋺口縁部1点が出土

旧菅原小学校遺跡発掘調査報告書

1997年３月12日　印刷

1997年３月20日　発行

発行　白州町教育委員会
山梨県北巨摩郡白州町白須312
電話（0551）35-2800

印刷　ほおずき書籍株式会社
長野市柳原2133-5
電話（026）244-0235